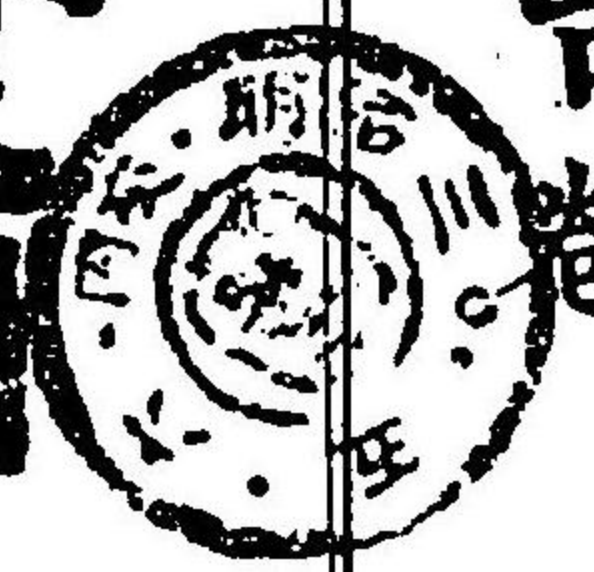


野口保興著 外國之部 卷下

中等教育地理教科書



東京

成美堂發行
目黒書房

中等地理教科書

外國地誌下卷目次

わろっは洲

總論	一
東部	二六
北部	四九
中部	五七
西部	九二
南部	一三三
あふりか洲	
總論	

總論……………一
 北あめりか……………一一
 中部……………三九
 南部……………五九
 南あめりか
 北部……………八五
 西部……………九三
 東部……………一〇四

大陸部
 北あふりか……………二七
 中部……………四〇
 東部……………五一
 南あふりか
 西部……………五七
 中部……………六〇
 南部……………六六
 嶋嶼部
 あめりか洲

江
る
は
海

中等地理教科書

外國地誌

はるは洲目次

總論

自然之部

政治之部

東部

ロシヤ國

ヒンランド大侯國

北部

スカンナナビア半島

..... 一

..... 一

..... 一七

..... 二六

..... 四七

..... 四七

..... 四九

..... 四九

スエリゲ王国……………五二
 ノルゲ王国……………五三
 デンマルク王国……………五七

中部

ドイツ國……………五七
 エステルライヒ—ウングアルス君主國……………七二
 シュウイツ國……………八六

西部

オランダ王国……………九二
 ルクセムブルク大侯國……………九七
 ヘルツク王国……………九八

フランス共和國……………一〇四
 大ブリテン—アイア—ランド聯合王国……………一二七

南部

イベリア半嶋……………一三三
 エスパニア王国……………一三六
 アンドール……………一四〇
 シアラタル……………一四一
 ホルトガル王国……………一四一
 イタリア王国……………一四五
 サンマリノ……………一五二
 マルタ……………一五二
 バルカン半嶋……………一五三

ギリシア王国……………一五七

トルコ帝国……………一六〇

モンテネグロ公国……………一六五

ボスニア―ヘルツェゴヴィナ……………一六七

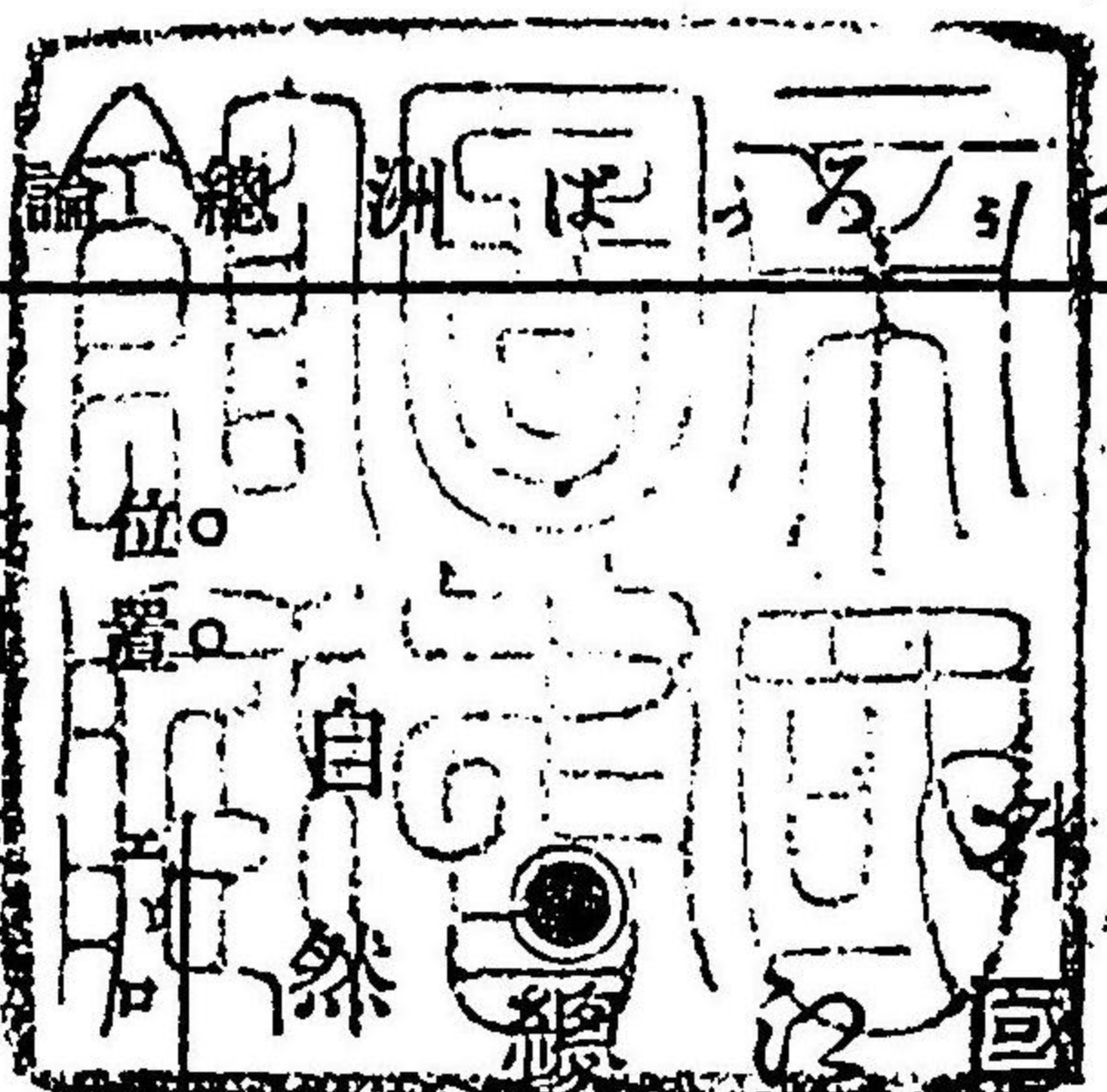
スルビア王国……………一六七

ブルガリア王国……………一六九

ロマニア王国……………一七一

中等地理教科書

野口保興著



地誌
うろっば洲

論

之部

一大洲を形成すると云ふより寧ろアシア洲の半嶋と稱すべし、蓋し本洲を以て西より東に趣くに從ひて漸に増大し、ソンマ諸嶋よりペーリシヤ海峽に至るの地を東邊とする一大梯形の西部と認むるを得ればなり。

而して南はクレタ島の北緯三十五度五分に起りて北はソワイアゼ
ムリア島の北緯七十六度五十五分に終り、極東はカラ河水源の東經六
十六度二十分にありて極西はイスランド島の西經二十二度三十分
あり

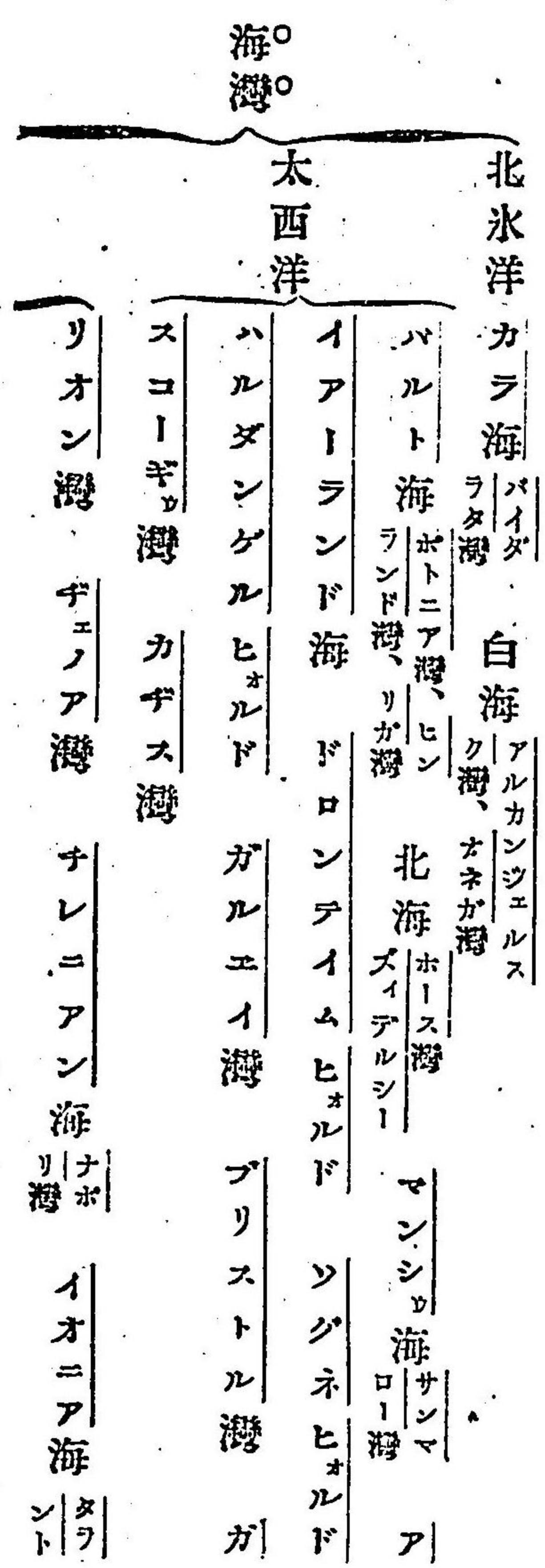
境域 本洲は北に北氷洋、北西及び西に大西洋、南に地中海を控ふるを
以て三方は海に瀕するが、南東はカスカス山脈、カスピ海を隔て、東はウラ
ル河、ウラル山脈を挟みてアツア洲に隣接せり

廣袤 東西に長くして五千六百軒に亘れるが、南北は四千軒を有す
るに過ぎず

面積 本洲は舊世界の三大洲中、最小なるものにしてオセアニア洲
より稍大なるが、地積は凡そ一千万方軒あり

海岸 本洲は他の大洲に比し、最、海岸の屈曲に富めるものなれば、其

の延長は比較的著大にして、實に三萬二千軒に達せり、其中、五千八
百軒は北氷洋にありて、一萬三千五百軒は大西洋并に屬海に瀕し、一萬
二千七百軒は地中海及び近海に屬せり、而して本洲に屬する海岸の狀態
が各處同じからざるは勿論なれども、地中海并に大西洋の沿岸は、岩礁
多く、絶崖に富みて、甚しき屈曲を呈供するも、其の他、内海の沿岸は概平
低にして、河口の外には著しき彎曲を見ること少なし



地中海
 灣レバ
 アドリア海
 エジプト海
 ナウブリア海
 エジナ海
 サロニカ海
 ベンジナ海
 マ

北部
 ワイガチヤ

北西部
 スカゲルラック
 カッタガット
 スンド
 大ベルト
 小ベルト

海峽
 南部
 パードカレ
 北水路
 セントジョージ水路
 ヲブラルタル
 メシナ
 オトラント

半島
 南部
 イベリア
 イタリア
 バルカン
 モレア
 クリミア

北部
 カニン
 コラ
 スカンヂナピア
 ヌットランド

北西部
 ハルステルボ岬
 スカゲン岬
 ウラス岬
 ランツエ

地角
 北部
 氷岬
 北岬
 リンデスネス岬

地角
 北西部
 ンド岬
 クリアー岬
 サンマチャー岬
 ヒニステール

地 峽

南部

セントビンセント岬
 ヲブラルタル岬
 テウラダ岬
 パッセロ岬
 スバルナベ
 ント岬
 マタバン岬
 コリンス
 ペレコップ

北氷洋

スピッツベルグ群島
 ノワイアゼムリア諸島
 コルグイェ
 フ島

嶋 嶼

大西洋

ダンマルク諸島
 シーラン島
 ヒイエン島等
 ホルスホルム島
 エランド
 島
 ゴットランド島
 エゼル島
 ダゴ島
 オランド島
 テクセル島
 ヘルブランド島
 ワイト島
 ノルマンヂ
 ア諸島
 イスラント島
 ロホデン諸島
 ヘラー島
 シエ
 トランド島
 オークネイ諸島
 ヘブリッツ諸島
 プリタ
 ニア群島
 大アリタニア嶋
 アイアイランド島

地中海

- パレアル諸島
- マルタ島
- シクレイタ島
- シクラデス諸島
- スボラデス諸島
- イオニア諸島
- セリゴ島
- シシリテ島
- コルス島
- サルデニア島

山誌。本洲は地勢上分ちて二部となすを得べし、其の大陸部はバイ
 ヨンヌよりアストラハンに至る線とバイヨンヌよりカラ海に至る線
 との間でありて、其の半島部は本洲の南部と北西部とにあり、而して本
 洲が世界の文化に關して著大の任務を有するは殊に半島、島嶼、港灣等
 の多きに因らずんばならず、且又本洲中の各部に就きて政治上若しく
 は經濟上優勢にありしものを時代の順に依りて列擧すればギリシア、
 イタリア、エスパニア、フランス、イギリス等の半島、島嶼たるを見るべし
 エロッパ洲は既に其の地形を完成せしもの如し、蓋し火山は概し其の
 活氣を失ひて僅にイスラント島、シシリア島等の一局部に餘力を顯す

に過ぎず、而して海岸には多少の變動ありて水陸の配分に幾分かの差
 異を生ずるも大体の形狀を變更するに足らず、且又本洲はアフリカの
 臺地に於けるが如く又はアメリカの平地、沿海山脈に於けるが如く、特
 殊の地貌に偏せざるにあり

本洲の山脈の情態に就きて記さんに、高地は中央に彙集して周旁に
 傾斜せり、之を高地、エロッパとす、ツールーズ、ミンデン、ホクツニを頂點
 とする三角の形狀を呈供し、平均海拔は三百五十米突なるが、主要の山
 塊はアルプ山脈にしてフランス山彙、ドイツ山脈、カルパット山脈は之が
 從屬たり、又此の山地の東北、西に當りて大平野の存するありてウラル
 山脈の外、他には微々たる丘陵又は臺地を見るに過ぎず、而して南に當
 りては廣狹の一ならざる地峽に依りて數個の半島を分派せり、又半島、
 島嶼の中にて北部に於けるものは、エロッパ洲最舊の地層に屬し、海拔

は顯著ならざるも海岸は極めて屈曲に富めり
 エッロツパ山岳の直立がアシアの山岳に及ばざるや遠く、五千米突以上
 上に達する高峰はカフカス山脈中に存するのみにて、眞のエッロツパ山岳
 たるアルプ山脈の最高處は四千八百十米突を有するに過ぎず、而して
 本洲の大部分は北方の平野なるが、之に内部の平低の地、並に多少の窪
 地を加ふればエッロツパ洲の平均海拔は三百米突を超過せざるべし
 土地の起伏より考ふるときは本洲の山岳を三群に分つを以て適當
 なりとす、其の一は南部山脈にして山岳重厚、高度顯著なるがアルプ山
 脈は之が盟主たり、其の二は中央山脈にしてカルパット、ピレネーの兩山
 脈の間に亘れるものなるが、高度は著しからず、其の三は北部山脈にし
 てブリタニアの山脈、並にスカンデナビアの山脈より成れり、而してイ
 スランド嶋の山岳は三群以外にありとす

南部山脈

アルプ山脈	ヘルプー(四一〇三)	モンブラン(四八一〇)	ロザ(四六三八)
	ベルニナ(四〇〇〇)	グロスグロックチル(三七九)	オル
	トレル(三九〇五)		
カルパツシア山脈	タトラ(二六六三)	ピエトロスツマ(二三〇〇)	
イリリア山脈	ザナリアアルプ		
バルカン山脈	リロダク(二九三〇)	チアロダク(三〇五〇)	
ピンド山脈	オリムピア(二九七三)		
クレイタ山脈	イダ(二五〇〇)		
アペニン山脈	ケランサツソ(二九二二)		
コルス山脈	モンテシント(二七一〇)		
サルデニア山脈	ザエンナルザエンナツ(一七九五)		
ピレネー山脈	マラテッタ(三四〇四)		
カンタブレイ山脈	ピコスデエッロツパ(二六七八)	シエラテグレドス(二五九二)	
カフカス山脈			

中央山脈

- フランス中央山脈 モントーール(一八八六)
- ツヴァー山脈 グレードラチーツァ(一七〇〇) シュースラル(一六〇〇)
- ゴエミア山脈 シツチーコッフ(一六〇一)
- ホーヅ山脈 グランバロン(一四二六)
- 黒森山脈 ヘルドベルグ(一四九五)
- アリス山脈 スノードン(一〇八九)
- 克蘭ピア山脈 ベンチ井ス(一三四三)
- スカンザナピア山脈 イメスヘルド(一五六〇) ドフレヘルド(一三〇〇)
- ウラル山脈

北部山脈

此の外、火山にイタリア半島の南部にベツバあり、シシリア島にエトナあり、而してイスタンブールには六ヶの活火山ありて最、著名なるをヘクラとす

前記の山脈中にて最、有名なるはアルプ山脈なり、蓋、此の山脈は高峰

奇岳に富めるのみならず、雪層氷河を戴き無数の溪流を發して一大貯水域を爲せり、又縦横に走行せる峽谷は天然の通路を開きて周圍に於ける住民をして容易に交通するを得しむ、本山脈の有用にして無害なる實に世界第一の山脈と稱すべし

水誌 本洲の河流を分類するは極めて困難なり、土地の起伏状態には千差萬別ありて流域并に分水線は共に明確を缺けり、河系が山脈に從屬せずして同一の水流が山間流、臺地流、平野流、各種の特兆を呈供するが如きは實に他の大洲に於ては稀なる所なり、ライン河がヨッラ山脈をコンスタンツとバゼルとの間、并にライン沿岸臺地をピンゲンとホースとの間に於て通過横斷し、ドナウ河が一方に於てはアルプとカルパットの間に於ては後シルバニアとバルカンとの間に於て狭隘なる通路を求むるが如きは是なり、又平野の河流に於けるも亦流域

完全ならずしてボルガ、ドン、ドニエールはウラル、カルパツシヤ丘陵を通
 過しピスチャ、オデル、エルベもウラル、カルパツシヤ并にウラル、バルト
 の丘陵の爲に迂路を求めざるを得ず、而して斯の如く河流が山脈を切
 断するは交通上に便益を興ふること大なりと知るべし

水脈の航行に適するは平野流なるが、各河の航行部を河長の分數に
 て表指すればボルガ(16/17)、ドナウ(11/12)、セイヌ(4/5)、ライン及ビローヌ(2/3)
 マーヴ(1/4)、チヘル(1/10)を得るなり、而して河口の状態は注水海の如何
 に依るものなるが、潮汐少なき地中海、北海にありては三角洲を爲すも
 の多く、之に反して大西洋にありては概し河灣を形成せり

要するに本洲は土地廣大ならざれば他の三大洲の如く大河巨流を
 有するを得ざるも、地積の少なさに比すれば海灣多く山岳高く特に起
 伏の配附宜しきを得たれば、河流は水量に乏しからずして航行に堪ふ

ボルガ河に於ける河の延長と水量との對照表

河名	河長	水量
ボルガ	58	2954
ドナウ	675	1718
ライン	776	507
ローヌ	840	1720
セーヌ	895	330
ワール	980	985
ヴェーザ	1100	1371
ロース	1320	1975
ドニエール	2850	9180
ボルガ	3400	9889

1000 2000 3000
 河長數

2000 4000 6000 8000
 一秒時に於ける立方米數

るを以て人類の生存には極めて適合するもの、如し是亦本洲が夙に文化の佳境に入りて他の大洲に冠たるに至りたる故ならんか

地	斜	面	河	流
北氷洋	カラ	ハナナラ		
白海	ド	井ナ	キ	ネナガ
大西洋	シ	ン	ン	ロ
	グ	ア	ア	ナ
	グ	ア	ダ	ラ
	キ	ビ	ル	
バルト海	ト	ル	子	ア
	子	バ	ダ	ナ
	ニ	エ	マ	ン
	ビ	ス	チ	ツ
	オ	テ	ル	
北海	グ	ロ	ン	メ
	エ	タ	エ	ル
	エ	ル	ベ	
	エ	ゼ	ル	
	ラ	イ	ン	
マインシヤ海	マ	ア	ス	
	エ	ス	カ	
	テ	イ	ム	
	ホ	ム	ベ	
	ホ	ー	ス	
アイアランド海	ク	ラ	イ	ド
地中海	エ	ア	ロ	
	ロ	ー	ム	
	ア	ル	ノ	

ナルヘニア海	チメル
アドリア海	ポーアゲツ
エジエア海	ワルダル マリツ
黒海	ドナウ ドニエステル ドニエメル クバン
アソフ海	ドン
カスピ海	ホルガ ウラル テレンク

而して主要なる河流を長さの順に依りて列記すれば

- ボルガ(三六〇) ドナウ(二八五) ライン(三三〇) エルメ(二〇〇) ロワール(九八)
 ターヌ(六九五) ローヌ(八四〇) セイヌ(七七六) ポー(六七五) チヤ(五八)
 又此等の河流を水量の順に依りて列記すれば 括弧内の数字は一秒時に對する立方米突數なり
 ドナウ(九八〇) ボルガ(四五〇) チヤ(三九五) ライン(二七二) ローヌ(二七〇)
 ポー(二七八) エルメ(三七一) ロワール(九八) セイヌ(五〇七) ターヌ(三三〇)

本洲第一の巨流たるボルガ河は土人の聖河、ロシア人のマツシカ母河のにして、長さは三千八百軒に達す、流域は百四十六萬方軒を有するも平均水量は一秒時に四千四百立方米突に過ぎず、是れ水源が平野にあると流域が降雨の多からざる乾燥の地にあるに因るなるべし、ボルガ河は水源をワルダルの窪地に於ける海拔六十五米突の處に發し、東流してカザンに趣き、數多の沼湖の水を容れ、ホロギの階段を越ゆること三十五回にしてツエルに至れば、航行自由となり、運河に依りてバルト海に通ぜり、而してニジニノウゴロドに於て一千五百軒の長さ、一千三百米突の幅を有するオカ河を合はす、カザンを経過したる後に本流はウラル山脈より來るカマ河を容れ、方向を南に轉じて流下するも、著しき合流を受けざるに流域が乾燥に失するに因りて、水世に増加を見ることなし、左岸は平坦なる草原なるも、右岸は絶壁にして稀には三百米突に達するところありて風色に富めり、サマラ、サラトウを經、カスピ海を距る五百軒のツアリツインに至りて三角洲に入り、アストラハン以下の下流には嶋嶼又は砂洲多くして無數の分流を爲し航行に便ならず、ボルガ河はカスピ海に注水する

も此の大湖をして其の水平を保たしむるに足らずして反りて泥沙を輸送し
來りて湖底を淺からしむ、然れども魚類を産すること夥しきが故に沿岸の住
民に漁利を興ふること少なしとせず、而して春季の増水の際には三米突以上
の水層が全三角洲を蔽ふことあり

本洲第二の巨流をドナウ河とす、河長は二千八百軒にして流域は八十萬方
軒なるも、平均氷量は一億九千立方米突に達せり、ドナウ河は水源をシツルツワ
ル(黒森)山脈に發し、ドイツツツラの麓に沿ひてバイエルン産地の北邊を洗ひ
レゲンズベルグの附近に至りバイエルンの高地は本流をして方向を南東に
變ぜしむるも、ホヘミアとアルプ山脈の東端との間に於ては峡谷を開き、井エ
メを經、ウツガルム平野に入り、小カルパット山脈を迂回したる後は數流に分れ
て大小のシツツを抱けり、而して第二の峡谷に依りてバコニアを越へ
ウツガルムの大平野を潤しつ、南下せり、ドラウ、テイッス、サリエを容れて、順
向を變じ、鐵門と稱する第三の峡谷に依りて後シルバニアアルプを横斷し、ロ
マーニア平野の南部を通りて諸水を集め、ドブルチアの小さな産地に達して北

行す、ガラツの附近に至れば河流は分れて數派を成り、三角州を形成して黒海
に注水せり、而して分流の主要なるものはキリア、スリナ、サントツォルツアに
て航行上最も有用なるはスリナなり

ライン河は水源をアルプ山脈の中心、センゴタール山脈のアツラ山地、氷
原に發し、狭長なる縦谷の一に依りて山地を流下し、西流してコンスタンツ湖
を爲し、シレイツの産地を過ぎり、シツフハウセンの瀑布を爲してツラ山脈を
越え、アアル河を容れ、バセルに於て方向を北に轉じ、ホーツツとシツワルツワ
ルの間に於ては平野を潤し、マインツに至ればタウヌスの横るあるを以て、西に
折れて通路を求め、狹隘なる河床の中を流れ、ボンヌを經てザツセルドルフに
至り、廣潤なる平野に出で、西ドイツを通過するものなるが土地に傾斜少なく
水勢は甚だ微弱なれば、河流は分れて數派を成る、其のイッセルは北行して、メ
アルシーに入り、其のレック、ワアルは共に西に趣くも、レックはマアス河と水
を交へて、流域の廣は十六萬方軒なるが、平均の水量は一秒時に一千七百二十八立方

米突ナリ

湖沼の重なるものを擧げんに、ヒンランド地方にオチガ、ラドガ、ペイ
 プスあり、南スエリゲにエテルヌ、エチルスあり、中央の山脈地方にバラ
 トン、コンスタンツ、ゼチブあり、其の他、北ドイツの平野に沼地多し
 本洲の氣温が純然たる温和帶的特兆を有するには種々の原因ある
 べしと雖、第一は緯度に因るべし、蓋し極南の地に於けるも熱帶に達せ
 ずして、極北も北極圓を超ゆることなし、第二はアトラント洋と地中海
 との間において南西並に西の温風の通路に當れるにあり、第三は海岸
 の屈曲多きが爲め内部も亦海風の温和的作用を蒙るにあり、是れアツア
 アツリカに比しエツロッパに於ける同温線が北上せる所以なり、而して
 氣温の昇降の激しきは海濱を距るに従ひて其の度を高むるを以て北
 進するよりは寧ろ東漸してウシガルヌ又はロシヤに大陸的氣候を觀る

なり、第四は土地の起伏は降雨地方を區畫するに足らずして乾燥に失
 する地方を生ずることなく、又高地と低地との配附は緯度の高低と相
 待ちて氣温の平均を保つにあり、然れども種々の情態より考ふれば、縦
 令境界線は明確ならざるも、本洲を三大帶に區分するを得べし、其の第
 一は西部にして夏冬共に温和なり、第二は地中海沿岸の地にして夏季
 冬季共に氣温高し、以上の二帶は何れも海候に屬せり、第三は東部にして
 夏暑く冬寒き陸候の地なり、此等の差異の存するは夏冬兩季の同温線
 の配置に依りて、自明なるが、夏季にありては氣温は南より北に趣くに
 従ひて降下するも、冬季にありては西より東に趣くに従ひて低下せり
 降雨に就きても本洲は熱帶地方の如き豪雨を見ざるも亦乾燥に失
 する砂漠の地の存するあるなし、而して降雨の量并に雨天の數は西の
 方、大西洋より東の方アツアに趣くに従ひて減少するは左表に依りて

自明なり

地 方	雨天の日數	雨 量
アイアランド并にイングランドの西岸	二二〇	一一〇〇 _耗
東部フランス	一五〇	六〇〇
ウンガルス	一一〇	四二〇
東部ロシア	九〇	三三〇
シベリア(ヤクーツク)	六〇	二二〇

又季節によりて區分すれば第一に西部は秋季に雨多く、第二に中央并に東部は夏季に雨多く、第三に南部の地中海沿岸地方は夏季にありては乾燥を極むるも、春季又は冬季に於て降雨を見る。天産の植物は氣温と降雨とに對し緊密なる關係を有するもの

なるを以て、第一に地中海沿岸地の一帯は全然、他の部分に異なりて特殊の情態を有せり、其の北境は沿岸の山脈なれば地帯の廣狹は勿論一様ならざるが、光熱共に多くして濕氣少なく、森林の存するなきも、橄欖柑類、椰子等は容易に蕃殖せり、又地味は概、礫角にして豐腴ならざるも亦葡萄、桑樹、蜀黍、米等の産あり、第二に西部、中部の一帯は尙、温熱を受くること多く殊に濕潤なり、土地は肥沃にして最、穀類の耕種に適せるが又葡萄の栽培を見ざるに非ず、第三に北部并に東部の一帯は冬季の寒氣凜烈にして夏季は甚、短く雨量は西方に多くして東方に少なく、ア、ア的氣候を有する森林草原の地なり。動物には猛獸奇獸の存すること少なく熊、狼、猪、鹿、狐、兔等の如き普通の野獸は概、各地の山谷に棲息するも北部又は南部に限りて生産する數種の獸類あり、而して鳥類、爬蟲、魚類等に至りては殊に列擧すべきも

のなし
鐵産に就きては鐵を第一とし、銅之に次ぎ、金銀は其の量多からず、白金はウラル山脈に産し、錫、鉛、水銀、亞鉛等はイギリス、エスバニア、ドイツに産せり、石炭はイギリス、ベルマック、ドイツ、フランス等の各地に産す而して其の他に琥珀、硫黄、泥炭等あり

政治之部

人口は三億五千萬以上なれば之を一千餘萬方呎の地に配分すれば一方呎に付き三十五人以上を得べし、されば之をアヲア洲の十九人、アメリカ洲の四人等に較ぶれば本洲の人口は稠密にして五大洲中の最たるものたるを知るべし、且又人口の配附は稍均一にして人跡の絶へたる地少なく又非常の群集を觀るの土も多からず、而して人口の最、稠

密なるは西部にして、中部、南部之に次ぎ、東部は稀薄にして、北部には一方呎に付き一人を有するに過ぎざる處あり
人種 本洲の住民は人種上、インド、エウロッパ人種と蒙古人種との二部に大別するを得、而して其のインド、エウロッパ人種は分れて三群を爲す

- 一、ギリシア、ラテン群(1,000) 萬 ラテン人(九〇〇) ロマーニア人(八五〇)等
- 二、セルマニア群(一六〇〇) ドイツ人、オランダ人、フランド人、イギリス人、等
- 三、スラフ群(七〇〇) 東 族(七〇〇) ロシア人、バルガリア人、等
- 三、スラフ群(七〇〇) 西 族(三〇〇) ポーランド人、スロバック人、等
- 南西族(七五〇) クロアシア人、スルビヤ人、等

又蒙古人種に屬するものは其の數二千万以上なるが三群を爲せり

一、ヒンランド人、ラポニア人、サモイェード人等(五〇)
 二、マチャル人(七〇)
 三、トルコ人、タルタリア人(五〇)
 宗。教。に。差。異。あ。る。は。種。族。の。如。何。に。依。れ。る。が。如。き。感。あ。り。ラ。テ。ン。派。文。化。の。人。民。は。概。し。て。耶。蘇。舊。教。を。奉。じ。て。其。の。數。は。一。億。六。千。二。百。萬。以。上。に。達。せ。り。新。教。徒。の。多。く。は。ゼ。ル。マ。ニ。ア。種。族。に。屬。し。て。其。の。數。は。八。千。五。百。萬。な。り。ス。ラ。フ。種。族、ヒ。ン。種。族、ロ。マ。ニ。ア。人、ギ。リ。シ。ア。人。等。は。ギ。リ。シ。ア。教。を。奉。じ。て。其。の。數。九。千。萬。あ。り。タ。タル。人、トルコ人等。は。合。せ。て。七。百。萬。な。る。が。マ。ホ。メ。ッ。ト。教。を。信。じ。、マ。ヂ。ア。教。徒。六。〇。〇。〇。は。各。地。に。散。在。せ。り。
 列。國。本。洲。に。於。け。る。列。國。の。名。稱。面。積。人。口。都。府。等。を。掲。げ。て。一。表。を。作。れ。ば。左。の。如。し。

部名 國名 面積 人口 疎密 都府

部名	國名	面積	人口	疎密	都府
東部	ロシア國	五八、九八五、〇〇二	八、七九七、九	一八	ペテルブルク
	スエリゲ王國	四、〇七四	四、八七三、二八三	二	ストックホルム
北部	ノルゲ王國	三三、三〇四	一、九八六、七四	六	クリスタニア
	ダンマルク王國	三、八四〇	二、七三三、八〇	五	オペンハーゲン
	ドイツ國	五、〇四三	四、九四二、八七〇	九	ベルリン
	エステルライヒ帝國	三〇、〇三三	三、八九、五三三	七	ウィエナ
中部	ウングアルヌ王國	三三、五三四	一、七四、三九一	五	ブダペスト
	シツウィツ國	四、二四六	二、九一、七五	七	ヘルヌ
	オランダ王國	三、三〇〇	四、七九、五四八	一	スグラベン、ハーグ
	ベルマック王國	二、九四七	六、三四、一九六	二	ブリクセル
西部	フランス共和國	五、六〇八	三、八四、三九二	七	パリ
	イギリス王國	三、二六八	三、七六、〇七四	一	ロンドン

ホルトガル王国	九二五七五	五〇二二〇キ	五	リスボア
エスパニア王国	五〇四三三	一七三六、三三三	三五	マドリッド
イタリア王国	二六六五九	三〇九一、三三三	一〇八	ローマ
ギリシア王国	六五二九	二二八七〇八	三四	アスエス
トルコ帝国	二六八五三	五、〇〇〇〇〇	三三	コンスタンチノープル
モンテネグロ公国	九八〇	二〇、〇〇〇	二	ゼチキエ
スルビヤ王国	四八五九〇	二六、三四三	四七	ベルグラド
ブルガリア王国	九六六〇	三三〇、六二六	三三	ソフィア
ロマーニア王国	三三、〇一〇	五〇三、二三四	二九	ブカレスト

東 部

● ロシヤ 國

表劣優業産の國強七るけ於に洲ばるるに

席 次	地 積	人 口 總 數	人 口 増 殖	穀 類 産 額	葡 萄 産 額	家 畜 頭 數	農 産 總 額	石 炭 産 額	鐵 類 産 額	絹 布 製 作	毛 布 製 作	綿 布 製 作	砂 糖 製 造	工 産 總 額	貿 易 總 額	出 入 船 舶 數	商 船 噸 數	鐵 路 延 長	郵 便 電 信
一 第	R	R	R	R	F	F	F	D	D	F	F	D	D	D	D	D	D	D	D
二 第	Ö	D	D	D	D	D	D	D	D	I	D	D	Ö	D	D	D	D	D	D
三 第	D	Ö	D	D	F	F	R	D	D	D	D	D	Ö	F	F	F	F	F	F
四 第	F	F	I	I	I	F	Ö	Ö	Ö	D	D	R	R	F	F	F	F	F	F
五 第	F	F	Ö	Ö	Ö	Ö	Ö	Ö	Ö	R	R	R	R	F	F	F	F	F	F
六 第	E	E	D	D	D	E	E	E	E	I	I	I	E	I	I	I	I	I	I
七 第	I	F	F	F	D	I	E	I	I	E	E	E	I	E	E	I	Ö	E	R

(ア)イI (ス)ラF (ア)バE (ツ)イD (ス)キI
 (ヤ)ロR (ス)ルガソウ=ヒイララテスE Ö

位○置○

ロシア即ち全ロシア帝國は、ヨーロッパ洲の東半部とアジア洲の北半部とより成りて、東西は西經凡百七十度の東岬より東經凡百七十度三十分のピヌドリ ドの西端に至りて、經度百七十二度四十二分に亘り、極北のチエリウスキヌ岬は北極より十二度の處にありて、極南の地は後カスピア州のヘリウードにして赤道より三十五度にあり

面○積○

ロシア全國の地積は二千二百三十九萬一千八百八十九萬方料なるが、其中五百五十一萬四千六百三十五方料はヨーロッパ洲にありて、一千六百八十七萬六千九百五十四方料はアジア洲にあり、即ち此の地積はアジア洲の大半に當りて、アフリカ洲の三分の二以上に當り、地球表面の二十三分の一、陸部の六分の一、ヨーロッパ洲又は清國の二倍、我が日本國の五十倍に相當せり、されば世界の列國中に於て地積上、此の帝國を凌駕するものは一のイギリス帝國あるのみ、而して海上王の屬

地は各處に、散在せるも大北帝國の領土は西の方、バルト海より東の方、太平洋に至るまで、并に北の氷洋より南の境界に至るまで、連綿として、間斷なき一大土塊を爲して、遙に優勢の地位にあるものとす。

部 名	地 積	人 口	疎 密	パ ッ ロ ヴ エ		ア ジ ア			
				計	シベリア	計	中央アジア		
エウロップ	四八八、九〇六二	八八九〇、六九二一	一八	シベリア	一一五、八四八九	一六四九、五九五二	カカシヤ	四七、二五五四	七五五、五七二五
ポーランド	三二、七三一九	八九〇、〇四一八	七〇	中央アジア	三、七六〇五	三、七六〇五	中央アジア	三五〇、四九〇八	六一〇、六八九四
フィンランド	三三、三六〇四	二三八、〇一四〇	六	計	五四、四〇六三	一、一九〇三、二七五〇	計	一一、二九〇三、二七五〇	四七八、二六五二
大侯國	五三三、八九八五	一、〇〇一八、七四七九	一八	合計	一一、二九〇三、二七五〇	五	合計	一一、二九〇三、二七五〇	一、八八四、五二七一

境。其の三分の二は海洋的にして、殘りの三分の一は陸地的なり。然れども北氷洋に瀕する海岸の地は常に氷塊流水の爲に閉塞せられ、ベーリン海、オホーツク海、日本海にありては結氷の害稍、少なく交通の便を缺くは毎年數ヶ月のみなるも、人口群集并に百貨生産の中心を距ること遠きに過ぐるが如し、白海は四千四百五十軒の海岸を有するも航行に適するは僅に三ヶ月なり、バルト海の沿岸の地は延長六千七百五十軒に達するも航行上、困難多く毎年五ヶ月間は結氷の爲に閉塞せ

部 名	地 積	人 口	疎 密	内 海		合計
				アラル海	カスピ海	
アラル海	六、七七六九	—	—	アラル海	—	—
カスピ海	四三、八六八八	—	—	カスピ海	—	—
アソフ海	三、七六〇五	—	—	アソフ海	—	—
計	五四、四〇六三	—	—	計	—	—
合計	一一、二九〇三、二七五〇	五	—	合計	—	—

らる、而してカスピ海は陸地に挟まれて外海に通ずることなし、されば終始航行に堪ふる海濱は黒海(三三)なり、而して黒海は水深く容易に航行し得べきも、港灣に乏しく、アツフ海は水底淺くして便ならず、且又此の二海は共に數多の海峡を経るに非ざれば、外洋に通ずるを得ず

陸地的境界に就きては四千五百軒は西ヨーロッパに接し、八千軒はアツア洲の有民地に隣し、七千五百軒は山脈又は沙漠に據れり、さればロシア國は二千二百萬方軒の地積に對し、有用境界は僅に二萬軒に過ぎず、即ち一千方軒に就きて一軒の割合なり、是れ此の國が地中海、太平洋等に於て海岸線の發達を謀るに汲々たる所以ならんか

山岳。土地には平坦にして、砥の如きあり、又は多少の起伏を爲して、皺波の狀を呈するあり、然れども平均の海拔は百六十七米突に過ぎず

してヨーロッパの平均海拔二百九十七米突に比すれば、甚だ低くしとす、而して高嶺の存するは南境の一部に限り、東邊の山脈之に次ぎ、内部の起伏は僅に丘陵をなすのみ、ヨーロッパとアツア洲との間に跨れるカッカス山脈はエルブルス(五四七)、カズベック(五二五)等の秀峯を有するも、ウル山脈の海拔は顯著ならず、而して内部に於けるワルマイ臺地の海拔は僅に三百五十米突に達せり

河。流。ヨーロッパの最長流と云はる、ボルガ即ち大河を始めとし、顯著なる水脈數條を有せり

北ロシアの巨流たるチバー河はヨーロッパのセントラレンスなれども、ラドガ、オチガはアメリカの大湖に及ばず、オチガ湖は附近の諸流の水を集め、スピル河と成りてラドガ湖に注ぐ、而して此のラドガ湖はフィンランドのタクセン并にノボゴロッドのホルホフの水を容れ、チバーと

成りて流出す、本河は水清く底深く二百米突乃至四百米突の幅と平均水量二千九百五十五方米突とを以てベラルブルクとヒンランド湖との間に水路を開き大船巨舶をして自由に航通するを得しむ

南ロシアの二大流ドン、ドニエペルはドナウ河に次げる長流なり、ドン河(二〇)は古名をタナイニスと云ひ中央ロシアのイバン湖に水源を發し、タガンロッ湖に注ぐ、流域四十萬方料の水を集むるも平均水量は九百立方米突に過ぎず、ドニエペル河(三〇)は五十萬方料以上の流域を有するも、平均水量は二千八百立方米突を越ゆることなし、ボルガ、チャナの如く水源を中央の森林地に發しプリベト、デスナの水を容れ、五百乃至一千里突の河幅を以て有名のキエフ府を過ぎ、イエカテリノスラフ附近に於て十三ヶ處のバログスを爲して四十三米突の地を流下し四百米突の峡谷を過ぎて再び緩流と成り、其のリマン即ち河口に於て綠樹蒼蔚た

る數多の小嶺を潤したる後、オデッサ灣に注げり

ロシアは沼湖に富める土地なるが殊に北西の一帶を以て然りとす、而して最、大なるものはラドカ湖にして長さは二百軒、幅は九十軒あるが一萬八千三百三十方軒の面を蔽ふ、此湖に次ぎて大なるものはオチガ湖にして九千七百五十二方軒の面積を有せり、其の他に於て稍、著しきものを擧ぐればイマンドラ、サイマ、イルメン、ベイプス、ピエロ等の數湖あり

氣候 〇ロシアの國土は大陸的にして北部に於ける海洋は寒冷を極

めて常に結氷するを見る、而して土地は廣漠たる平原より成りて、極地より吹き來る寒風を遮ぎる高山なきも南來の溫風を遏むるに足るの秀領に乏しからず、從て此の地の氣温は同緯度に於ける他の地方に比すれば遙に低溫にして且急激の變化あり、要するに南より北に趣きて

北氷洋に接すると西より東に行きてシベリアに近づくことに依りて
 氣温は著しく降下するものゝ如し、茲に二三の例を掲げて氣温の狀態
 を示さんにオレンブルグは之より八度北にあるペテルブルグと年平
 均の温度を等しうするも其の七月の平均温度は八度南に於けるツ
 ルーズの温度に等しうして其の一月の氣温は十三度北にあるアルハ
 ンジェルスクより低度を示すことあり、されば南部一帯の地にありては
 短期の暑熱に依りて生熟すべきアルメリア的蔬菜の耕種を見るも其
 の東部にありては冬季の嚴寒を恐るる果樹の全、缺乏せるを見るべし
 降雨はバルシヤウの四十四糎、ペテルブルグの四十五糎、モスクワの
 四十一糎、アストラハンの十六七糎の如く西より東に趣くに從ひて遞
 減し殊に夏季の乾燥に失するは土地の肥力をして甚しく殺滅せしむ
 るが如し、又沼湖河流が降雨に依りて得る所の水量は蒸發の爲に失ふ

ものを償ふに足らざれば水脈は漸減縮して遂に涸失せんとするの兆
 あり、往時には航通の便を供せし河流も現時は一地方に灌漑の利を興
 ふるに過ぎざるなり、ボルガ河畔の地の衰微したる、ウラル下流の十九
 派が減じて五派と成りたるは共に水量の減少に歸せざるを得ず、而し
 て斯の如き事實の現出せるに就きては森林の濫伐蓋し其の主因なるべ
 しと云ふ

天産 礦物には石炭、金、白金、銀、鐵、銅、石材等あり、植物には山林より出
 づる樺、松、樅、山毛櫸、菩提樹等あり、動物には熊、馴鹿、駱駝、野牛、各種の毛皮
 獸、羽毛鳥等あり

人誌 全ロシア國の人口總數は一億一千九百餘萬なるが、エロッパ
 ーロシアの住民は八千八百九十萬餘にして此の外にポーランドの八
 百九十萬人并にフィンランド大侯國の三十七萬人あり、而して人口の増殖

は稍著しくして九十年以上百年未滿にて二倍するの割合なり、又此等の住民は帝國の各地に居りて市町村を組成するも市町に居住するもの數は總人口の八分一に當れり而して此の割合はフランスにありては四分の一にしてイギリスにありては二分の一なり

住民にはインド、エロップ種に屬するあり又蒙古種に屬するあり然れども多數はスラブ種族にして其の數は八千萬以上に達せり、ロシア人は分れて二と成り、其のモスクワ派即ち大ロシア人(五千五百萬)は活潑有爲にして實利を重じ、其のリッシーヌ派即ち小ロシア人(二千萬)は體軀巨大にして容貌整備せるも大ロシア人に比すれば思慮の深からざる所あるが如し、此の外にポーランド人(九百萬)あり、ロシアニア人、ヒシランド人あり、ツデー人(三百萬)の各地に居るあり而してトルコ、タタールの數は一千萬以上に達せり

宗教の中にて最、勢力あるはギリシア正教にして其の信徒は七千萬人に達せり、而して此の外に正教の數派に屬するもの一千五百萬人あり、又正教以外には天主教に七百萬、耶蘇新教に四百萬人、マホメット教に五百萬人あり

教育は未だ盛況を呈するに至らざるも高等教育はペテルブルグ、モスクワ、キイエフ、カルマウ、オデッサ、カザン、ドルバット、ワルサワ、ヘルシングホルム、トムスク等の十ヶ處に大學校を設けて八百人の教授と一萬五千人の學生とを有せり、此の外に十余ヶ處に高等の専門學校ありて各種の技藝を研磨せり、又中等教育には一千三十七校ありて男女合せて二十三萬に達する生徒を教養し、特種の學校は其の數四百四十六なるが六萬足らずの生徒を有せり、次に初等教育には四萬有余の小學校と二百二十余萬の生徒とのあるあり、從て生徒の總數は二百五十萬以上に達

して其の中、六十五萬は女生徒なり

政誌[○] ロシヤ帝國は君主專治の國にして皇帝はツァールと稱す、内閣あり樞密院あるも共に皇帝の任命する所にして帝國樞要の庶政に參與するに當りてはツァールに對して責任を有するのみ、而して中央政廳には外務、陸軍、海軍、内務、司法、教育、財務、農務、遞信等の諸省并に會計検査院、御料局等あり又地方政廳には總督府、太守廳等あり、而して、サンクトペテルブルグ、セバストポリ、オデッサ、ケルチの如き重要な都市には府尹を置く

府州はエウロパ[○] || ロシアに五十、ポーランドに十、カフカシアに十、中央アジアに九、シベリアに九ありて、最大なるはヤクーツク州にして、三百九十七萬餘の方秆を有すれば我が帝國の九倍に當り、最小なるはポランドのキエルセ省にして其の地積は一萬九十三方秆に過ぎず、又人

口の最、多きは非アトカ府にして三百萬餘の住人を有し、最、少なきはアムール州にして其の人口は六萬三千餘なり、而して帝國の省州中、人口の最、稠密なるはワルサワ省の百十人にして最、稀薄なるはヤクーツク州の〇、〇六なり

此の外、司法上に於ては高等裁判所を十ヶ處に設けて若干づゝの地方裁判所をして之に隸屬せしめ、各教育區には監督官を置きて教育の普及上進を圖らしむ、又宗教に關しては正教に總管長、管長、僧正等あり、其の他の宗教には管長あり

兵、備上に於ては陸軍を全國の十三軍區に配置せり、而して兵員を列記すれば左表の如し

兵種	野戰兵		豫備兵		要塞兵		後備兵	
	士官	卒	士官	卒	士官	卒	士官	卒
歩兵	一七九四三	八七、八六三六	二、一六六	六七、一六二〇	三三〇〇	一四、三五五〇	三八九六	二二、八〇八三

合計	騎兵	砲兵	工兵
二、四五一、二〇九、〇二六、〇	三、三九六	二、五〇五	六、六八
一、四三三、五九	一〇、〇〇八	八、五三二、六	二、六三三、〇
七、八、八四、五〇	二、三三五	八、一〇	一、五五
三八三、四	八、四六、一七	二、四三、四八	七、八七、五
二、二、六四、〇〇	二、二八八	二〇六	七、五五、四
五、二八、五	七、二二、六	九六	五、四二
三〇、〇、四、二二	七、五二	五〇六、四	二、九四、一四

又海軍は四艦隊より成りて總員は一千二百十五人の士官、六百三十人の軍屬、二萬八千人の下士卒、等を抱括せり

艦隊	隻數	噸數	砲數	水雷發射管數	馬力
バルト艦隊	一九四	二五、二七二	一三三	一八〇	二、七、一九五
黒海艦隊	五四	九、二五九、六	三八五	九二	一〇、七八九、六
シベリア艦隊	二四	六、七六八	八五	六	一、五、五四九
カスピ海艦隊	六	二、五二一	四	一	二、六〇八

此等の艦船の中にて甲鐵戰艦は十七隻にして帶甲巡航艦は八隻なり
 財政に就きては千八百九十三年度に於て歳入に十二億二千六萬ル
 ーブルありて歳出に十億六千五百四萬ルーブルありたり、又公債の總
 額は硬貨の十二億七千萬ルーブル、證券の三十一億五千七百萬磅の二
 百四十三萬、フランクの五億四千萬、等より成れり
 生業 農業は帝國の生業中に於て主位を占め住民の十中九までは
 本業に従事せり、エ、ヨーロッパ、ロシアの三分の二に當る三百六十萬方
 畝の地は耕耘に適するが其の中、九十萬はチ、エ、ル、ノ、シ、ム、即ち黒土に
 してウ、ラ、ル、河の水源より西方の國境に達せり、然れども人口の發達充分
 ならざれば實際に耕作せらるゝは九十五萬方畝に過ぎず而して農産の第
 一は穀類にして三億三千萬石に達するが其の十五分の一は輸出に供し
 得べし、此の外亞麻に三億二千萬畝、大麻に一億六千二百萬畝、馬鈴薯に

五千三百萬石、烟草に六千六百萬斤の産あり、南部は果樹を培養し北部の森林は樺、松、樅、等を産す、牧畜は盛に行はれて牛二千四百萬頭、馬一千八百萬頭、羊四千七百萬頭を飼養し、漁業は二千五百萬ルーブルの産ありて、獵業に二百萬ルーブルの産あり、鑛業は一千八百八十六年に於て三萬三千斤の金、一萬三千斤の銀、四百五十七萬斤の銅、五億三千二百萬斤の鐵を與へたるが、白金、鉛、錫、亞鉛等の産額は著しからず、而して産地はウラル、アルタイ、サイアン、後バイカルの山岳地方にあり、岩鹽に一百萬噸の産あるがオレムブルグの南に於けるヘツカイアザクチタ坑は毎歲三十萬噸を産せり、石炭はドネツ、オカの流域の地より出で、四百萬噸に達し、石油はバクレー、ケルチ、タマン等の地に産せり、要するにエヴロパに達し、石油はバクレー、ケルチ、タマン等の地に産せり、要するにエヴロパに於ける鑛業は一千八百八十六年中に九萬二千の工夫に依りて六千萬ルーブルを産出したり、工業は未だ盛大なるに至らざるも近來

長足の進歩を爲してサンクトペテルブルグ、モスクワ等の如き人口稠密の地には幾多の工場、製造場の設立あり、而して工業中にて蒸溜、醸造、紡績、製糖、製油、製鐵、製麻、毛布の製作、烟草の製造等は稍著しとす

貿易の總額は左表の如くなるが輸入國はイギリス、ドイツ、合衆國、清國等にして輸出國はイギリス、ドイツ、フランス、エステルライヒ、ウーンガルス、イタリア等なり

年次	一八九九年	一八九〇	一八九一	一八九二	一八九三	一八九四
輸入	四七〇	四二六	三七九	四〇三	四三三	五五九
輸出	七六六	七〇五	七三二	四八九	六三三	六八四

而して輸入品の主要なるものは機械類、金屬器類、綿布類、茶類等にして、輸出品の主要なるものは穀類、木材、亞麻等なり、又通商港の中にて名を知らるゝものはバルト海に於けるサンクトペテルブルグ、クロンスタ

ドナルバ、レベリガ、井ンダウ、リバウ、黒海に於けるオデッサ、ニコライエ
フ、ケルツン、エバトリア、セオドシア、ケルチヤ、ベルチアンスク、タガンロ
ク、マリウプル、ロストフ、イエイスク、ボチ、白海に於けるアルハンジェル
ス、オネガ、カスピ海に於ける、アストラハン、デルベント、バクー、等なりと
す、而して此等の商港中の主要なるものを取引高に依りて排列すれば
オデッサ、サンクトペテルブルク、クロンスタド、リガ、レベリガを得るなり
而して此の國の貿易に従事する船舶を國旗別にすればイギリス、ロシ
ヤ、ドイツ、スエリゲ、ノルゲ、ダンマ、ルク、トルコ、等と成るなり

國內に行はる、商業は稍盛にして商買の人員は一百万以上に達し、
純益高の概算は五億ルーブルなり而して取引は各地に開かる、定期
市場に於て行はる、殊にニシニイノボゴロトの市場は著名なり、又南東の
諸省并にポーランドにはウデア人にして商業に従事するもの甚多し

ロシア帝國の海岸線の發達は四百五十万平方杆に付き一杆の割合にし
て航行し得べき河流は三萬五千杆あるも之を地積に對比すれば百五
十五萬平方杆に付き一杆を有するに過ぎず、然のみならず冬季は凍氷の
妨害ありて夏季は水量の不足を感じるを以て航行の便を供するは春
季に限れり、然れども土地平坦にして山岳に乏しきは運河の發達を助
けて其の延長は八百杆に達せり、此の外、鐵路は二萬九千六百七十一杆
ありて主要の都會を連絡し、郵便局の數は六千八百にして電信局の數
は四千餘なり

處誌。サンクトペテルブルク(104,000)はペートル大帝の創建(一千七
百三年)に係りて帝國の首都なるが、ヒンランド灣に瀕しネバ河に跨
れり、土地は濕潤に過ぎて寒氣は凛烈を極むるのみならず、時に洪水の
患あるも街衢は端麗にして道路は廣濶なり、宮殿寺院は屹然として高

く聳へ商店倉庫は整然として軒を列ふ、實に世界屈指の大都會たるに
 恥ぢず、近傍のクロンスタド(四、二〇〇)に有名の軍港あり、モスクワ(八、〇〇〇)は
 舊都の一にしてロシア人の以て聖地と爲す所なり、寺院極めて多く其の數
 四百有餘に達せり、殊にクレムルの宮殿は歴史上有名なりとす、本市は
 此の國上流社會の避寒の地なれば庭園別墅多く廣袤甚大にして
 頗る殷賑なり、從て商業工業共に見るべきものあり、ワルサワ(四、〇〇〇)はポ
 ルスカの舊都にしてヴィスワ河の畔にあり、オデッサ(四、〇〇〇)は建設以來
 未だ百年を経ざるも帝國第一の貿易港にして盛に穀類を輸出せり、ハル
 コフ(九、〇〇〇)はドン河の流域にありて良土の中央に位せり、キエフ(八、〇〇〇)
 は舊都の一にしてロシア人の聖地として崇拜する所なり、リガ(八、〇〇〇)
 はバルト海に瀕する商港なり、ロヂ(四、〇〇〇)は今を去る七十年前には人
 口七八百の一村なりしが現時は工業上第一の中心なり、カザン(三、〇〇〇)

はギリシア教のロシア人とマホメット教のタタール人との雜居する處
 なり

サラトフ(二、〇〇〇)はボルガ河に瀕する一都會なり、キシヌー(二、〇〇〇)
 はベッサラビアにあり、井ルナ(二、〇〇〇)はリニアにあり、サマラ(一〇、〇〇〇)
 はボルガ河の畔にありて交通上の要處なり、此の外、アストラハン(九、四〇〇)
 はカスピ海沿岸の地にあり、ニジニノボゴロッド(七、二〇〇)は市場として名を知
 らる、セメストポリ、スモレンスクは共に戦史上著名の地なり

◎ ヒンランド

ヒンランド大侯國はロシアの北西部にありて、西はポトニア海に臨みス
 エリケに境し、南はヒンランド海に瀕し、東はメテルブルク、オロチツ、アルハン
 シェルスクの三府に接し、北はノルゲ國のラホニアに隣するが三十七萬餘方
 町の地積を有せり

此の地が不流の諸水に富めるは實に世界無比にしてサンクトミカエル府

にありては沼湖は地積の半以上を占む、此の外、殊に記すべきは河流が互に並行するの一事なり、ヒンランドの河流にしてボトニア灣に注ぐものは南東より北東に趣きてスエリゲ國の北西より南東に流るゝものと相對せり、而してヒンランドの沼湖の中にて最も廣大なるはサイマ湖にして一千七千方杆の面積を有するがイマトラの瀑布を爲しナクセン河に依りてヒンランド灣に注げり、氣候は凜烈なるも健康に適し七ヶ月に亘る冬季は嚴寒なれども夏季は溫暖にして殊に乾燥を極む

人口は二百四十五萬ありて一方科に付き七人の割合なるが同緯度の諸國に比すれば住民の多き方なり、而して住人を種族別にすればヒンランド人(二一萬)スエリゲ人(二三)にしてロシア人は少なし、宗教はルーテル派の新教を奉ずるものを以て多しとす、

一千八百九年以來ヒンランドは獨立の大侯國にしてロシアの皇帝を頭領に戴くも君民自治なれば貴族、僧侶、市民、農民の四階級より成れる國會を有せり、總督は大侯の代理者として行政府の長官并に常備軍の總指揮官たり

耕地は多からざるも農業は生業中にありて首位を占め、牧畜は主として馬を飼ふ又此の地の大理石は著名なり、貿易は全計二億七千五百萬マルクなるが木材、パク、紙、革、等を輸出せり、商船は一千八百三十隻と二十五萬噸を有し、鐵路の延長は二千三百軒に近し

ヘルシングホルス(七、〇〇〇)は大侯國の首都にして行政府の所在地なるが有名の大學校を有せり、

北 部

● スカ ン デ ナ ビ ア 半 島

本半島はスエリゲ國とノルケ國を抱括するものなるが、北緯五十五度二十分と七十一度十分との間にありて、極西は東經四度五十分にして極東は同二十四度四分なり、北は北氷洋に枕み西は大西洋、北海に瀕し、南は北海、バルト海に接し、東はバルト海、ボトニア灣、ヒンランド、ロシ

ヤに隣せり、又地積は七十七萬方呎にして、其の内、四十五萬はスエリケに屬し、三十二萬はノルケに屬せり

海岸は風折に富みて、狹灣は深く、陸地に侵入し、ソグチヒョルドの如きは百七十呎の長きを有せり、而して狹灣の沿岸はスエリケにありては灣曲に乏しきも、ノルケにありては山岳高く、變は最淺の處は灣口にあるを常とす

顯著なる凸處は西部一帯の地を蔽ひて、六百乃至九百米突の地盤の上に、壑地又は山彙を形成せり、而してトロンドヒエム（一五七二）の凹窪處の北にありては、キエレン（一三〇〇）はヒンマルクに終り、南に於てはドフル井（一五七二）に南ノルケの山脈あり、又最高（一五七二）の地はノルケ國にありては、ガルドヘビゲン（一五七二）、スチハット（一三〇〇）、ジエツゲハレ（一九二〇）、等にして、スエリケにありては、アレスクタ（一五七二）、スリチエルマ（一八三二）、サレチオツコ（二〇八〇）、ケアチカイッス（二〇八六）、等なり、又氷原はノルケのホルゲホンド、ヨステダルスアレ、スハルチセン、等を以て著しとす、而してスエリケに於ける氷原の總面積は百七十方呎に過ぎず

河流はノルケにありては、短小なれども、スエリケにありては、稍長し、ゲロムメン（三九一）はノルケにあり、カリスエルフ（四三六）、リッスチエルフ（三九一）、ゲテエルフ、等はスエリケにあり、又沼湖はノルケの地積の千分の二十五を占め、スエリケの十二分の一を蔽ふ、就中、エチルヌ、エチルヌ、ノラルヌ、トルチシリは稍著し

ノルケに於ては、氣温の年平均は二度五分なるが、西部は海候にして、北海井に北氷洋に瀕するの地には、降雨多し、要するにノルケの氣候は比較的、溫和なりとす、之に反し、スエリケは陸候の國にして、北部の年平均は零度下二度、南部の平均は七度なり

スエリケ、ノルケの二國は、一千八百十四年以來同一の君主の下に統治せらるるも、國體は各個獨立にして、各特殊の政治機關を備具せり、然れども、海外派遣の公使、領事は兩國を代表し、又兩國の臣民を保護せり

◎スエリゲ王国

スエリゲ國の人口は四百八十七萬なれば一方料に付き十一人の割合なり、住民の多數はスエリゲ人にしてヒンランド人は二十萬ラボニア人は六千弱なり、宗教にはルーテル派の新教を奉ずるもの多く、教育は普及して讀書を知らざるものは全く其の跡を絶てり、一萬足らずの小學校は六十三萬の生徒を教養し、ルンドとウプサラに於ける大學校は學術の研究に従事せり、政體は君民同治にして第一第二の兩院より成れる國會あり、十省より成れる行政府あり、而して地方には二十四の縣あり、兵備は陸軍に平時の三萬八千人、戰時の二十七萬人あり、海軍に五十五隻三萬二千噸ありて砲塔戰艦三隻と帶甲艦四隻とを有せり、貿易は輸入に三億三千萬クロナありて輸出に三億二千八百萬クロナあり、而して製鐵所は甚多く殊にモタラを以て著名とす、其の他、工藝品

の主なるものは木具、燐寸、製紙用木粉、織物等なり、鐵路の延長は九千二百三十四杆にして人口に比すればエロッパ第一たり、ストックホルム(三六、〇〇〇)は王國の首都なるがメラル湖上に於ける十二三の島嶼に跨れり、ゲテボルグ(二、〇〇〇)はスエリゲ第二の商港にしてカッタガ海峽に瀕す、スエリゲ國に附屬する島嶼にウランド、ゴトランドあり

◎ノルゲ王国

ノルゲ國の人口は百九十九萬に近くして一方料に付き六人の割合を興ふ、宗教はルーテル派新教にして異教の者は其の數三萬に達せず、教育の普及はスエリゲに劣らずして六千五百の小學校は三十萬の生徒に普通の智識技藝を授け、クリスタニアの大學は高等の教育を施せり、政體は君民同治にして立法を司る國會はストルシングと稱し、其の四分の一はラグシングと成り、其の四分の三はオデルスシングと成

る、行政權は國王に屬し、二大臣と九顧問とより成る行政院は輔弼の任に當れり、陸兵は平時にありては二萬人なるも、戰時には二倍以上たるべく、艦船は四十九隻一萬五千噸を有せり、生業中にて最盛なるは漁業にして、漁人の數は十萬以上に達せり、貿易の高は輸入に二億六百萬クロナありて、輸出に一億三千二百萬クロナあるが、木材、木具、皮革、凍氷等は主要の輸出品なり、商船は七千五百隻、百六十九萬噸あるを以て比較上世界第一と稱せらる、又鐵路の延長は一千七百軒なり、クリスタニア(五、〇〇〇)は王國の首都にして、狹灣に瀕し、グロムメン河、ミエッセン湖の附近にあり、ベルゲン(五、〇〇〇)、トロンドヒェム(三、〇〇〇)は商港たり、ノルゲ國に屬する島嶼には、ロホデン諸島あり

● ダンマルク王國

ダンマルク國は、イーランド半島の北部と、スヤーランド、ヒイエン、ホルヌホルム、其の他、百五十有餘の島嶼とより成れり、地積は三萬八千餘方軒に過ぎず、土地は平低にして起伏少なく、最高處と雖、百七十二米突を有するのみ、海岸は屈曲に富みて、數多の狹灣を有せり、リイムフォルドの如きは、イーランドの北端を横斷して、殆ど一島を作為せんとす、沼池多く、泥炭田は各處にあり、河流の主なるは、グエデナアにして、百六十軒の長を有せり、氣温はスカンデナビアの二國に比すれば、稍高く、キオペンハーゲン、年の平均は七度四分なり

人口は二百十七萬あれば、一方軒に對しては五十七人と成るなり、國教はルーテル派の新教なるが、二萬足らずの異教の信者あり、教育は盛にして、三千の小學校、七十の中學校、一の大學校を有す、國體は代議王國にして、行政權を握れる國王は、ランドスタング、ホルケチングの二院よ

り成れる國會と共に立法の事を司れり、而して地方行政の區畫は十九縣なり、兵備は陸兵に四萬六千ありて海軍に六十三隻四萬二千噸あり、生業は農業を主とす、牧業も亦盛なり、バターを製し製粉、蒸溜、醸造等に從事す、貿易は輸入に三億二千萬、クロチルありて、輸出に二億三千七百萬、クロチルあり、バター、肉類、家畜、穀類等を輸出す、商船は三千六百七十五隻三十三萬噸にして鐵路の延長は二千二百五十八料なり、郵便は九百七十三局を有し電信線の長は四千九百料に近し、キペン、ハーフォン、ニセ、ニセは國都にして要港の一なり、往時の盛況を呈せざるも亦北ヨーロッパ第一の都會たるを失はず、殊に此の地の大學校は有名なり

ダンマルクに屬する土地はヘルエル諸島、アイスランド、グリーンランド、アンタル諸島等にして地積は十九萬五千方料に達するも人口は十二萬七千有餘に過ぎず

中央部

◎ ドイツ國

ドイツ國は中央ヨーロッパの北部を占め北緯四十七度より五十六度に至り、東經六度より二十三度に達せり、北は東海、北海に瀕し、西はオランダ、ベルジック、フランスと境を交へ、南はシツウィツ、エステルライヒに隣し、東はロシアに接せり、地積は五十四萬餘方料なり、海岸は平低にして屈曲に乏しく北海に於てはエルベ、エゼルの兩河灣とブローデの小灣あり、バルト海に於てはリッゲン、キールの二灣を觀る、地勢に就きては北部と東部はロシア平野に連なりて土地極めて平低なるが最高處と雖、海拔は三百五十米突に達することなし、之に反して南西并に西部にありて、中地ドイツ、高地ドイツは山岳臺地より成れる一帯の隆起帶を抱括

せり、其のバイエルンと臺地はアルプ山脈に依り、ドナウ河に向ひて緩斜せるが平均海拔は凡そ五百米突にして幅は百五十乃至二百米なり、其の高地ドイツは臺地又は山岳より成りて、シッピツェル、シッワルツワルド、等を抱括し、其の中地ドイツはタウヌス、フンスリッック、チャリッゲルワルド、エーヘル、等の地を含みてハルツ山は一千一百四十米突に達せり、河流の主要なるものはライン、ドナウの外にエセル(五百二十米)、エルベ、オデル(九百米)、ワイクセル、等なるが黒海に越くドナウ河を除き、其の他は南東より北西に流れて北海又はバルト海に注げり、高地と海洋との關係は此の國に於ける、降雨の情勢を定めたり、平野にありては西より東に越くに從ひて陸候の度を増し雨量は(ブレメンの七十種、ベルリンの五十九種、マンチヒの四十八種)漸次に減少し寒暑の差は愈々強く氣温の變化は漸激烈と成る而して西部并に南西部にありては氣温稍高

く降雨多く變化は漸少し(フランクフルトの年平均は十度なり)、又南東の高地并に山岳の地にありては冬季は嚴寒を覺ゆ、

人口は五千二百二十五萬にして疎密は一方料に付九十七人なるが増殖率は八十年毎に二倍するの割合なり、住民の多數はドイツ人なるもポーレン人(二百萬)、マンマルク人の如き異種族人の數は四五百萬に達すべし、且又ドイツ人中にも北部のプロイセン人、南部のバイエルン人の如く歴史、慣習、等を異にするものあり、宗教上に於けるも北、南、東の三部は其の趣を異にせり、新教信者は其の數三千二百萬にして北部并に中部に多く舊教は其の數一千八百萬にして南部并に東部にあり、教育は甚盛にして各種の學校を有するが殊に學術上の進歩發明の著大なるを以て名あり

政誌。ドイツ國はドイツ皇帝の至高政府の下にある立憲國なり、行

政權を始め、條約の締結、宣戰媾和、等の權は皇帝に屬し、兵備、財政、通商、交通司法、等の如き聯邦全體に關する法律の制定はボンデスラットとライシタグとの共に司る所なり、ボンデスラットは各邦より派遣せる五十八人の全權委員より成りてライシタグは一般の投票に依りて撰出したる三百九十七人の代議士より成れり、聯邦は一大國、四中國、二十小國より成りてエルサツス、ロトリンゲンは別に一の帝國領土を爲せり

國 名	地 積	人 口	疎 密
プロイセン	三四、八四三七 <small>方籽</small>	三一八四、九七九五	<small>方籽に付</small> 九一
バイエルン	七、五八六五	五七九、七四一四	七六
サクセン	一、四九三三	三七八、六九三六	二五三
エルテンベルグ	一、九五〇四	二〇八、〇八九八	一〇六
メーデン	一、五〇八一	一七二、五二七〇	一一四

ヘッセン	七、八六二	一〇三、九三八八	一三五
メクレンブルグ・シュヴェーデン	一、三一六二	五九、六八八三	四五
サクセン・ロイマル・アイゼナヒ	三五九五	三三、九二一七	九四
メクレンブルグ・ストレルリツ	二、九二九	一〇、一五一三	三四
オルデンブルグ	六、四二三	三七、三七三九	五八
ブラウンシュヴァイヒ	三、六七二	四三、四二二三	一一八
サクセン・スマイテン	二、四六八	二二、四〇〇五	九五
サクセン・アルテンブルグ	一、三二四	一八、〇三二三	一三六
サクセン・コプブルグ・ゴタ	一、九五八	二一、六六〇三	一一一
アンハルト	二、二九四	二九、三二二三	一一八
シヴァルツブルク・ソンデナウゼン	八、六二	七、八〇七四	九一
シヴァルツブルク・グールドルス・タッド	九、四一	八、八六八五	九四
アルデック	一一、二	五、七七六六	五一
レウス(兄派)	三、一六	六、七四六八	二二三

レックス(弟渡)	八二六	一三、二一三〇	一六〇
シマンブルグリス	三二〇	四、一二三四	一一一
リッス	一一二五	一三、四六一七	一一一
ルベック	二九八	八、三三五八	二七八
ブレメン	二五六	一九、五五二〇	七六四
ハンブルグ	四二四	六八、一六三二	一六四七
エルサツス・ロトマングン	一、四五〇七	一六四、一三三〇	一一四
聯邦	五四、〇五二一	五二二五、〇八九四	九七

兵備、上世界屈指の強國として、陸兵は現役豫備を合せて百十三萬あり、後備は第一に六十四萬、第二に七十八萬あるを以て、戦時に於ける總員は二百五十五萬と成るなり、又海軍は八十九隻、二十六萬噸、二萬三千人を備ふるが甲鐵艦二十一隻、巡航艦十八隻あり、財政に就きては一千八百九十五年度の豫算に依れば、歳入歳出共に

十二億三千九百二十五萬マルクなり、而して國債の高は二十一億八千二百萬マルクなり

生業。ドイツ人が學理の應用に依りて自國の生産力を利用し、以て比較的、多量の物品を製出するは實に驚嘆するに餘りあり、南部並に中部の森林(十三萬方杆)は保存培養上、世界第一と稱せらる、地味は佳良なるに非ざるも、智識と人工とは夜業をして今日の盛況を呈せしむるに至れり、而して耕耘業の最、發達せるは北部東部にして、殊にシレゾエン、サクセン地方を以て然りとす、穀類には小麦、烏麥、麥等あるが多量の馬鈴薯は穀類の不足を補ふて餘りあり、コンスタント湖沿岸の地、エルサツス、其他、ライン河畔の地は葡萄を産し、アンハルト、ブラウンシュヴァイヒ、サクセン、シレゾエンは甜菜の産地として、エッロップ、第一と稱せらる、氣候は牧業の發達を助くるを以て、六萬方杆の艸圃は多數の畜類を飼養

せりハイエルヌ、オルデンブルグ、シッレスキグ、ホルスタインに一千五
 六百萬頭の牛あり、東プロイセン、ハンノベル、メクランブルグに四五百
 萬の馬あり、プロイセンに二千五百萬の羊あり、採鑛業は近來長足の進
 歩を爲してライン河、サクセン、シレゾエン等の地方に石炭、鐵を産し、エ
 ストハレン、ハンノベル、サクセンに銅を出だし、ライン河、シレゾエン
 地方に鉛、亞鉛を出だし、イセルローヌ、レムシアイド、ツイスブルグ、ソリ
 ンゲンは金屬器の製作に從來す、殊にエッセンのクルップ製作場は其の名、世
 に知らる、ステッタン、キール、アルトナに造船場あり、サクセンは陶器を作
 りエルベルヘルド、キルンには綿布を織り、クレヘルド、バルメンは絹布を
 製す、一千八百九十四年の貿易高は輸入に四十二億八千五百五十三萬
 ありて輸出に三十億五千一百四十八萬あり而して輸入國はイギリス、
 エステルライヒ、ウシガルヌ、アメリカ合衆國、ロシア、フランス、オラン

ダ等にして輸出國はイギリス、アメリカ合衆國、エステルライヒ、ウシ
 ガルヌ、オランダ、フランス等なり、又輸入品の主要なるものは穀類、生毛
 家畜、コーヒー、實綿、皮革、木材、生絲、毛絲等にして輸出品の主要なるもの
 は砂糖、毛布、鐵器、綿布、石炭、機械、鐵、絹布、書籍等なり、而して此等の貨物の
 比例配分を作れば

輸 入	食 品	畜 類	原 料	製 品
三〇〇	九八	五四七	五五	
輸 出	一一九	—	二二三	六五九

船舶出入の状況を記述せんに出入船舶を國旗別にすれば

旗 國	入 之 部		出 之 部	
	噸	隻	噸	隻
ドイッ	四、一六四七	七〇三、三四九六	三、九二二六	六二〇、九九五六
外 國	一、五五七七	六五四、九四七一	一、〇五八九	三七九、八六二五
合 計	五、七二三四	一三五八、二九六七	四、九八一五	一〇〇〇、八五八一

而して一千八百九十一年以後、五年間に於ける商船の増加を表示すれば次の表を得

年次	海上		汽船	
	隻數	噸數	隻數	噸數
一千八百九十五年	三六三五	一五五、三九〇五	一〇四三	八九、三〇四六
一千八百九十四年	三七二九	一五三、二〇五八	一〇一六	八三、七〇〇二
一千八百九十三年	三七二八	一五二、一五七八	九八六	七八、六三九七
一千八百九十二年	三六三九	一四六、八九八五	九四一	七六、四七一一
一千八百九十一年	三六五三	一四三、三三三三	八九六	七三、三六五二

ハンブルグはクックスハーヘンと相待ちて世界第一の商港を爲し、ブレメンはブレノルハーヘンを以てドイツ第二の商港たり、其の他、ステッテン、キール、メンナヒルベック、ケニグスベルグ等の各港も亦盛なり。鐵路の延長は四萬六千軒に達し内部の航路は二萬七千軒の長を有

す、殊にフランス、スウェーデンとキールとの間に於ける運河は東北の二海を連絡するに至れり、又郵便は三萬以上の局を有し、電線の長は十三萬軒に達して、其の組織は極めて整備せり。

教育が國內各地に普及して、寒村僻地に至るまで文化の恩澤を蒙りたるは蓋しドイツ國の隆盛を來たしたる原因の主なるものなるべし、天然の情態が此の國の統一を妨害したるに拘らず、思想の統一は教化の力に依りて實行せられたり、詩文と學校は共に働きて人情風俗を異にする各地方の住民をして國家の尊重すべく一致の必要なる所以を了知せしめたり、而して此等の原動力の淵源たりし市街は山岳の配置、地味の良否、河海の関係等の如き天然の情勢に基づきて建設を觀るに至りたるものなれば各地方の都會は何れも特殊の事情を有せしと雖、鞏固なる愛國思想の一度、之を連絡するあるに至りては政治的混同は容易

に收得せられたり、然れどもドイツ國の各地に於ける大都會の情況に就きて觀察を下さんか此の國の歴史が如何に錯綜せるかを表示するに足るべき活劇を目撃すべし

處誌。プロイセン。ベルリン(三八〇〇〇)は地味礫角の平野の中にありてエベル河の支流ルベルに注ぐスブレア河に跨れり、フランドンブルグ大侯の建設に係る一小都會なりしが近代に至りて迅速の進歩を爲して遂に今日の隆盛を觀るに至れり、街衢は端麗にして道路は廣濶なり商業工業共に繁昌なるがドイツの帝都、プロイセンの王都たるのみならず、世界政治の中心なり、ポツダム(五八〇〇)は軍器を製す、サンクスーシの城地なり、ステッタン(四〇〇〇)は一の商港を有す、メンナヒ(三、〇〇〇)は商港の一にして木材酒精を輸出す、ケニクスベルグ(七〇、〇〇〇)は軍府の一なり、ボセン(七〇、〇〇〇)は生毛の市場なり、ブレスラウ(三七、〇〇〇)はシレマエンに於

ける工業地なり、マクボブルグ(三、〇〇〇)は毛布、砂糖を製す、コフレンツ(三、九〇〇)は堅城を有す、ドリエル(三、六〇〇)は舊地として名あり、ボン(四、五〇〇)に大學あり、キール(三、〇〇〇)はライン河に瀕す、歴史上有名の地にして蒸溜業に従事す、商業も亦盛なり、軍府の一なり、アアヘン(二、〇〇〇)はシアルルマーキッの帝國の舊都にして毛布、機械、針類を産す、ザッセルドルフ(一八、〇〇〇)は工藝の中心たり、クレヘルド(二〇、〇〇〇)は絹布を製す、エルヘルヘルト(四、〇〇〇)并にバルメン(二、七〇〇)は綿布の産地なり、エッセン(九、六〇〇)はルール煤田の中心にして製鐵に従事す、有名のクルップ會社は此の地にあり、ドルトモンド(二、〇〇〇)は石炭の産地にありて製鐵業盛なり、アルトナ(二五、〇〇〇)は商港の一なり、キール(八、五〇〇)は軍港の一にして造船場あり、兵器を製作す、ハンノベル(三〇、〇〇〇)は舊同名の王國の都府たりし處なり、フランクフルトマイン(三三、〇〇〇)は金融上の一大中心たり

バイエルン ミンヘン(四〇,〇〇〇)はバイエルンの王都なり、建築、繪畫、等を以て名を知らるるが又ビールを醸造せり、アウグスブルグ(六,〇〇〇)は綿布を製す、ニルヌベルグ(二六,〇〇〇)は樂器、時計、等を製す

サクセン ドレムデン(三〇,〇〇〇)は人口稠密、地味肥沃なるサクセンの首都にしてエルベ河に瀕す、風色に富みて美術上有名なる處なり、ライプツヒ(三六,〇〇〇)は商業中心の一にして書籍の出版を以て名を知らる、チムニツ(二六,〇〇〇)は毛布を産す

ユルテムベルグ スツットガルト(二六,〇〇〇)は此の地の都なり、ウルム(三,九〇〇)は軍府の一なり

バーデン カルルスル(一八,四〇〇)は此の地の王都にして、マンハイム(九,〇〇〇)は煙草を製す

エルツサス—ロトリンゲン—ストラッスブルグ(三,五〇〇)はエルツサスの首

府にして軍府の一なり、商業盛にしてビールの醸造に従事す、ミッルハウヒン(六三,〇〇〇)は綿布麻布を製す、メツ(六,〇〇〇)はロトリンゲンの首府にして軍府の一なり、製鐵業の中心なり

ハンルブルグ(三三,〇〇〇)はエルベ河の分派に瀕し其の河口より一百軒の處にあり、市街は清潔にして建築は壯大なり、商業極めて盛にして世界第一の貿易港と稱せらる、ブレメン(四四,〇〇〇)はエゼル河に瀕す商港の一にして殊にアメリカ合衆國との交通盛なるがドイツ移住民の出發地たり、ルベク(七〇,〇〇〇)は商港の一なるが舊ハンセン諸港の首府たりし地なり

殖民地、ドイツ國の主權の下に置かるる土地にしてエウロパ洲以外にあるものは左表の如し

地名	地積	人口
トゴランド	四、〇〇〇〇	?
カメルン	四九、三六〇〇	三五〇、〇〇〇〇
南西アフリカ	八三、〇九六〇	二〇、〇〇〇〇
東アフリカ	九四、一一〇〇	二九〇、〇〇〇〇
オセアニア洲		
井ルヘルム帝地	一八、一六五〇	一一、〇〇〇〇
ビスマルク群島	四、七二〇〇	一八、八〇〇〇
サロモン諸島	二、二三五五	八、九〇〇〇
イルシヤル群島	四一五	一、六〇〇〇

● エステルライヒ＝ウングアルヌ君主國

境域。 エステルライヒ＝ウングアルヌは中部エウロッパに於ける強國の一にして、境界は南東のアドリア海に瀕する部分を除くの外、其の他は悉く陸地にして列國の間に介在せり、而して境を接する諸國を列擧すれば南西にイタリアあり、西にシウイツあり、北にドイツ國のバイエルヌ、サクセン、シレゾエンあり、北東並に東にロシヤあり、南東にロマニアあり、南にセルビヤ、トルコ、モンテネグロ等あり

全部の地積は六十二萬五千五百五十七方杆なれば我が國の一倍半に相當するも、地貌は佳良ならずして一國を組成するに足るの地理的單一性は全く之を缺けり、國土の主要部はドナウ河の流域に當れるも中流以上の地なるを以て外海に通することなし、而してアドリア海に於て七百杆の海岸線を有するも交通上の便益を供するは僅にトリエस्ट、ヒウメの二港あるのみ

山。河。 山脈は何れも外邊にあるが配附は均一ならず、西方に於けるアルプ山脈並に東方に横はるタトラ、カルパット、後シルバニアの山脈は顯著なるも北西より北に亘れるペーメン、エルツゲビルゲ、ステーションの諸脈は概して高丘を爲すに過ぎず、南部に於ける隆起帶は平原を距るに従ひて其の高度を増加せり、又此等の山脈に圍繞せらるる内部の平野は湖底の地にして起伏に乏しく地味肥沃なり、而してドナウ河は右岸にドゥベ、サへを受け左岸よりはマロスを合はするタイッスを容れて内部の平原を潤せり

氣候。 地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ、ウングアルヌをして單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして、唯一の共通性は到る處寒暑の差の大なるの一事なり、寒暖計が夏季に三十四度二分五厘に昇りて冬季に零下三十四度三分八厘に降るが如きは敢て稀な

りとせず、要するに此の國の氣候は大陸的なり、殊にウングアルヌの平野にありては氣温の昇降激しく四季の差別極めて判然たり、ペーメン、ウングアルヌ、ガリシエン等の平低の地に於ては冬は嚴寒に苦み、夏は酷暑堪へ難し、アルプ、カルパット等の山地又はクライン、クロアシエンの高地に於ては氣温の平均は下降するも、寒暖の差は減縮して變化少なく濕氣は大に其の度を増せり、而してアドリア海沿岸に於ては地中海的氣候を有し、寒烈風ホルラの吹き荒まざるときは、冬季と雖、溫暖を覺ゆ、夏季は暑氣強く殊にシロコ風の吹き來るときは炎熱灼くが如し、又降雨の最、多きは山地の高處と沿海の地方なりとす

人。誌。 エステルライヒ、ウングアルヌが一國として統一性を缺く點は種々あれども就中人口配置の不平均と種族の錯雜を極むるとは最著しきものなり、一千八百九十年の人口調査は四千一百三十八萬を以

て方村には平均六十六人を與ふるも、各地方の疎密を詳にすれば甚しき不平均を見るべし、北西部の市街の地、工藝の中心にありては人口稠密なれども、山岳地方又は高原地方にありては人口極めて稀薄なり、下エステルライヒは方村には百三十四人を有するもシレヲエン、ベリメンに於ては百十七人乃至百十二人に降り、ウングアルヌ、シーベンピルゲンにありては五十四人に減じ、チロル、サルツブルグに於ては三十人乃至二十四人を有するに過ぎず、又種族の如何を考ふるときは實に一驚を吃せざるを得ず

種族	人員	種族	人員
ドイツ人	一〇五七萬	ルマニエン人	二八〇
ウングアルヌ人	七四四	イタリア人	七〇
		ラテン人	

而して信教上に於ても亦十數派の存在するを見るべし

種族	人員	種族	人員
北派スラフ人	七四一	チカヌ人	九
南派スラフ人	三二五	其他	八
スラブ人	三四八	算入セザル分	五三
ポーレン人	三三三	合計	四一五三
ステイヌ人	一二七		
クロアシエン人			
スラボニエン人			

宗派	信徒數	宗派	信徒數
耶蘇舊教	二七六〇萬	耶蘇新教	一五一萬
ラテン派	四四六	アウグスブルグ派	二三四
ギリシア派	三二七	ヘルベシア派	一八六
アルメニア派		シツデア教	九
正教派		其他	

政誌。エステルライヒ[○]ウングアルヌ君主國はエステルライヒ帝國
 とウングアルヌ王國との二國より成れり、君主は帝冠と王冠との二冠を
 戴きて聯合國に君臨するも、二國に共通なる立法權は外務、軍務、財務、并
 にボスニエン、ヘルツェゴヰナに關するものに限りて、井エンのライシヤラ
 トとブダペストのライシヤラとより撰出せられたる六十六人の代議
 員之を司れり、而してエステルライヒの立法權はヘルレンハウスとア
 プゲオールドチテンハウスとの二院に屬し、ウングアルヌの立法權はマ
 ナト院と代議院とに屬せり、行政府の一は井エンにありて一はブダペ
ストにあり、其に其の議會に對して責任を有せり、其の他、地方議會は政
 治的權能を有せざるも、各州の首府に設けられて普通の施政に參與せ
 り、又二領土の分界は一小河流たるライタあるを以てエステルライヒ
 并に其の屬地を前ライタの部と稱し、ウングアルヌ并に其の屬地を後ラ

イタの部と呼べり、茲に一表を作りて各部の地積、人口、等を列記せり

國 名	地 積	人 口	方 料 に 付
下エステルライヒ	一、九八五三	二六六、一七九九	一三四
上エステルライヒ	一、一九九四	七八、五八三一	六五
サルツブルグ	七二六二	一七、三五一〇	二四
スタイエルマルク	二、二四四九	一二八、二七〇八	五七
カルヌテン	一、〇三三三	三六、一〇〇八	三五
クライン	九九六五	四九、八九五八	五〇
トリエスト及び屬地	九六	一五、七四六六	一
ゴリツ及びグラザスカ	二九二七	二二、〇三〇八	七五
イストリエン	四九五二	三一、七六一〇	六四
チロル	二、六六九〇	八一、二六九六	三〇
ホルルベルグ	二六一〇	一一、六〇七三	四五
バイメン	五、一九六七	五八四、三〇九四	一一二
メーレン	二、二三三一	二二七、六八七〇	一〇二

陸軍は現役軍、ランドエール、ランドストノムより成りて平時には士

全 君 主 國	在 外 兵 員	ム ル ガ ン ウ				ヒ				
		合 計 (乙)	ウ ン ガ ル ヌ	ヒ ウ ハ 及 び 屬 地	ス ラ ボ ニ エ ン	ク ロ ア シ エ ン	合 計 (甲)	ダ ル マ チ エ ン	ア コ 井 ナ	ガ リ チ エ ン
六二、五五五七	—	三三、五三二四	二八、二八〇四	二〇	四、二五〇〇	三三、五三二四	三〇、〇三三二	一、〇四五六	七、八五三二	五、一五三
四一三八、四九五六	二、五七五二	一七四六、三七九一	一五三三、一五二七	三、〇三三七	二二〇、一九二七	一七四六、三七九一	二三八九、五四一三	五二、七四二六	六六〇、七八一六	六〇、五六四九
六六	—	五四	五四	—	五二	五四	七九	六二	八四	一一七

官二萬一千二百四十三人、下士卒三十一萬八千七十七人、軍馬五萬七千三百四十四頭を有するが、戦時には士官四萬五十人、下士卒百八十三萬人、軍馬二十八萬を有すべし、又海軍は百二十二隻、十一萬三千噸を以て砲六百八十八門、二十八の水雷發射管、乗組一萬二千人を載せり
 財政上に於て全豫算は三部より成り、甲は兩部に共通にして乙は前ライタ部に屬し、丙は後ライタ部に屬せり

一八九三年		甲	乙	丙
歳 入	一、四三八二、一八八七	五、八五九五、四一二六	四、二〇一七、二六三七	
歳 出	一、四三八二、一八八七	五、八三九四、七五三三	三、八六九〇、二〇〇六	

生業。 エステルライヒ及びウングアルヌの分立は政治上に止まらずし

て經濟上にも亦出現せり即ちウングアルヌは農業國として立ち、エステル

ライヒは工業國として存す

ウングアルヌの肥沃の平野はドナウ河并に其の支流の潤澤を蒙りて十二萬方秊の一大農業地を爲せり、耕耘に適するの地は八億秊の穀類を産し、草圃の地に於ては二百萬頭の馬、五百萬頭の牛、一千五百萬頭の羊、四百五十萬頭の豚を飼養せり、又葡萄園は四十萬方秊の面積を有するが火山質丘陵のウングアルヌ臺地并にメルマチエン地方に配置せられて年産額五千萬圓に達せり、而して森林は薪炭、材木を産して優に國內の需要を充たすと云ふ

ペーメンは鑛産に富み殊にエルトツゲヒルゲ附近は石灰に豊なるを以て各種の製造工藝發達して工業上の一大中心と成れり、就中玻璃器の製造を以て名を知らる此の外、エステルライヒの各地に工藝の中心ありて漸次に旺盛に趣けり

貿易は輸入に貨物の六億九千九百九十三萬フロリンと貴金屬の三千七百六十五萬フロリンありて輸出に貨物の七億九千五百四十七萬フロリンと貴金屬の二千七百三十六萬フロリンあり、而して輸入品には實綿、コーヒ、生毛、石炭、穀類、等ありて輸出品には畜類、砂糖、穀類、木材、鶏卵、等あり、即ち此等の品種に就きて比例配分を作れば左の如し

輸入 飲食品 二二二 畜類 二九 原料 五〇一 製品 二五七
輸出 三五〇 九六 二八三 二七二

一千八百九十五年の始に於ける商船の實力は次表の如し

船種	隻數	噸數	乗組員	汽船	帆船	合計	隻數	噸數
遠洋航行船	二四八	一九、四九〇七	四四六三	汽船	帆船	合計	二〇三	一一、九七一
沿岸航行船	一七二	三、八六九〇	五〇九四	汽船	帆船	合計	一一三	一一、六〇二
汽船其他	九五五	二、二一四三	二、二七八	汽船	帆船	合計	一一三	一一、六〇二
合計	一、一五三	二五、五七四〇	三、一七四四	汽船	帆船	合計	一一三	一一、六〇二

ロイド商船會社は本社をトリエストに置き、海路の航業を專にし、ドナウ河汽船會社はドナウ河の航路を利用せり

鐵道はエステルライヒに一萬六千八百七十四軒ありてウングアルヌに一萬三千百七十二軒あれば合計は三萬四千六百六十八軒と成るなり、又郵便は凡そ九千八百局ありて電信線はエステルライヒの二萬九千七百六十八軒とウングアルヌの二萬四百九十八軒なり

處誌。井エン(三六、〇〇〇)はエステルライヒ帝國の首都なるがアルプ山脈の末端百四十六米突の地にありて遙にカルパット山脈を望みドナウ河に瀕す、ドイツ人、ウングアルヌ人、スラフ人の相隣接せるの地にあるを以て住人の四分の一はウングアルヌ人、スラフ人なり、中央政府の所在地として市街は頗る殷賑なり、宮殿寺院多く建築には觀るに足るもの多し、工藝の中心としては飾器、縫箔、磁器等を製す、實に世界屈指の都

會たるに恥ぢず、ブラグ(三〇、〇〇〇)は海拔三百米突の地にありてモルタウ河に沿ふ、ペーメンの首府にして綿布、羅紗、玻璃器等を製す、ブリアン(九、四〇〇)はメーレンの首府なるが絹布、燐寸の産あり、グラツ(二、〇〇〇)はスタイエールマルクの首府にして冶金業に従事して鋼鐵を製す、クラゲンフルト(三、〇〇〇)はカルヌテンの首府なり、トリエスト(五、〇〇〇)は帝國第一の商港なり、アドリア海に瀕してカルストの山麓にあり、住民はイタリヤ人甚なり、多し、レムベルグ(三、〇〇〇)はカリチエンの首府にして麻布を製す、此の地にはツッデア人、アルメニア人多し、クラカウ(七、五〇〇)はポーレンの舊都にして同國王の墳墓の地なり、近傍の井エリツカ、ボヒニアは岩鹽の産地として名あり、チェルノ井ツツ(五、四〇〇)はゴブナ第一の都會なり

ブダペスト(四、〇〇〇)はウングアルヌの王都にして、ブダ即オヘンとペストとを併稱したるものなるが、ドナウ河は其の間を流る、ペストは後ラ

イタ部の政府、國會の所在地にして商業工業の盛なる王國第一と稱せらる。プラハはマツアル人の堅城と爲す所なり、ボソニー(五、二〇〇)はドナウ河に瀕す、舊都の地なり、デブレクツツン(五、七〇〇)は畜類煙草を産す、セゲチン(八、五〇〇)はタイニス河に瀕す、純然たるマツアル市街にして商業盛なり、マリアテレヲオペル(七、三〇〇)は農産物の集散地なり、テメスハル(四、〇〇〇)は交通上の要處たり、ヒウメ(三、九〇〇)は商港の一なり

● ショワイツ國

ショワイツはヨーロッパの中部に於ける小國なり、境界は北にドイツのエルサッス、バーデン、ウルテムベルグ、バイエルヌあり、東にエステルライヒあり、南にイタリアあり、西にフランスあり、地積は四萬一千三百四十六方呎にして我が九州島(四六三、二五方呎)より少しく小なり

ショワイツは純然たる陸國なるが山岳は土地の三分の二を占む、南にアルプ山脈あり、北西に北にシラ山脈ありて此の二山脈をジエチーア、コンスタント雨湖との間に海拔五六百米突のショワイツの平原あり、此の國の最高點はロザ山(四六三八米突)にして最低處はマツアル湖(一九七米突)なり、アルプ山脈は南の斜面に於て断崖絶壁多く北面の傾斜は少しく緩慢なり、中央のゴッタルド山脈より二縦谷三横谷の發するあり、二縦谷の一はライン上流の溪谷にして北東に趣き、一はローヌ上流の谿谷にして南西に走り、三横谷中のテツシンは南に、レウッスは北に、アアルは北西に向けり、又ゴッタルドの山結に集合する山脈には南より來るワルリスアルプ、グリソンアルプあり、北より來るヘルヌアルプ、レナックアルプあり、而してモンブラン山脈は僅に其の北端をショワイツに觸るるに過ぎず、茲に顯著なる山岳の高さを列擧せん、ヘンニンアルプ山脈中にモンテロザ(四六三八)ドム(四五五四)マツテルホルヌ(四四八二)四五〇五)大コムピン(四三二七)あり、オベルランドアルプにヒンステル、アアルホルヌ(四二七五)イヴァンゲフラウ(四一六七)あり、ベルニナ山脈にベルニナ(四〇五二)あり而してシラ山脈はシロチーアよりシラ

フハウセンに達して二百八十軒の長さを有するが最高峯をドール(二六七八)とす
ローヌ、アアル、ライン、テッシン、ンウツ、等の河流は概してサントゴツタルド山脈
より發し、ドナウの支流たるインヌ河はシワイツの東部を貫流せり又アアル
山脈、シワ山脈の麓には數多の沼湖あり、北にコンスタマンツ、ツリッハ、西にネッ
タル、レマン、南にマキオレ、コモ、中部にズケ、ルツェルヌ、ツン、等あり、又高山の頂に
は積雪あり氷河あり、アレツヒの氷河はエッロツヘ第一にして二十五軒の長さを
有し而してモンテロザの氷河も亦廣大なりとす

同じ海拔の地に就きて、穀谷は瘠地より、西部は東部より、氣温稍高く、シワ地
方は寒氣強くレマン湖地方は溫和なり、中部平野の年平均は八度にしてサン
ベルナルの寺院にありては年平均は零下一度なり

人口は二百九十三萬なるが其の内、二百八萬はドイツ語、六十三萬は
フランス語、十六萬はイタリア語、四萬はロマンシヤ語を用ふ、其の他は用
語詳ならず、又宗教上に於ては新教に百七十三萬、舊教に百十九萬にし

て殘餘は概してツプア教に屬せり、教育は甚盛にして七千の學校は四
十二萬の生徒に普通の教育を與へ、ツリッヒのポリテクニコムは天下無
雙と稱せられ、バセル、ツリッヒ、ベルヌ、ジュネブ、ラウザンヌ、ヌーシヤテルは大
學校を有す、其の他二十五ヶ處の大圖書館あり、一千六百二十九ヶ處の
學校圖書館、通俗圖書館あり、又教育、學術等に關する學會組合は其の數
五千六百に達して二十五萬の會員を有せり

シワイツは二十五邦二十ニカントン中、三カントンは半カントンを爲せりより成れる合衆共和國にして
中央政府はベルヌにあり、聯邦議會は國民院と聯邦院との二院より成
りて共和國の政權を掌握す、行政權は聯邦議會の推撰に係る聯邦行政
委員に屬し、大統領は委員中より互撰す、ラウザンヌに於ける聯邦法院
は聯邦に關する裁判の事を司る而して各カントンの政治機關は概し
て中央の政治機關に同じ、聯邦軍はアウググに十二萬ありてランドエ

ルに八萬あり

土地の二割三分は畑地、一割六分は森林、一分は葡萄園、三割二分は牧地にして二割八分は全の生産地なり、葡萄はバウド、モーシテル、ツ
ーリッヒ、ワルリス等のカントンに於て栽培せられ年産額は百二十萬
頭なり、北西シロイツは牧業に従事し殊にグライエ、エムマンタルの
牛は良種として名あり、養蠶はテッシン、グリツン、アルゴウ、ツリーッヒ、ツル
ゴウ等のカントンに行はる、而して鑛産は著しからざるが、鐵、鹽、褐炭、土
磁青等を産せり、工藝の主なるものは時計、飾具、綿布、絹布、襪、靴等を
製作するにあり、又遊覽旅行に供する機關の整備せるは實に世界第一
にして當國富源の主要なるもの一たり、貿易の高は輸入に八億八千
八十五萬ありて輸出に六億七千三百餘萬あり、生絲、穀類、畜類、石炭、毛布、
等を輸入して絹布、綿布、時計、牛酪、絹糸等を輸出す、而して輸出入貨物に

就きて百分比例を作れば

	飲食品	畜類	原料	製品
輸入	二割五分	一割一分	四割	二割四分
輸出	一割五分	三分	四分	七割七分

シロイツは交通の機關を整備せん爲に巨額の金員を投入したる國
の一なるが、其の結果は山間の地たるに拘らず、道路開け、鐵路の延長は
三千五百裡に達せり、就中ゴツタルドの墜道はアルプの南北に於ける諸
國間の交通を開き、シムプロンの墜道はイタリアとフランスとの間に
通路を開くべし、而してアルルベルグの墜道は南東エッロツパに對して
一の門戸をシロイツに與へたり、又郵便は一千五百足らずの局を有し
電信線は七千二百餘裡の長を有せり

ベルヌ(西八〇〇)は一千八百四十八年以來、聯邦の首府なるが飾具を製

す、バセル(六、八〇〇)はライン河に瀕す、市街は廣大ならざるも生産力に富めるを以て世界屈指の都會の一に算へらる、貿易に従事し又絹布を製す、ツリッヒ(四、九〇〇)はリムマ河がツリッヒ湖に注ぐ處にあり、大學校の所在地として名あるのみならず又絹布を製す、サントガルレン(三、三〇〇)は笹線綿布を産す、ルツェルヌ(三、三〇〇)は四カントン湖より來るレウッス河に瀕す、稗紐を製するを以て名あり、ヌーシヤテル、ラシキードホン(三、一〇〇)、ルロクは時計を製造す、フリプーは牛酪を製す、ラザンヌ(三、九〇〇)は製革に従事す、ヴォネー(六、〇〇〇)は時計、飾具を製す又大學校の所在地として著名なり

西 部

● オランダ王国

オランダは西部ヨーロッパの一小國なるが、北と西とに北海を控へ、東はドイツに境し、南はベルギックに接す、地積は三萬三千方秆なれば我が四國島一萬八千方秆の二倍より稍、小なり、然れども築堤に依りてポルダーを作り毎歳十方秆づゝの増加を得ると云ふ、土地は平低にしてリムブルクの最高處と雖、海拔は二百四十米突に過ぎず、而してローランドの島地南北ホルランドの一部、オランダシの西に於ける地にありては海面より低き土地あり、又國の東部一帯には沼地多く荒蕪の地ありてドイツとオランダとの天然の境界を爲せり、ライン、マアス、イツセル、シエルデ等の下流は國內を貫流するが殊に運河の開堀多く、就中著名なるをロッテルダム、北ホルランド、アムステルダム等の運河なりとす、氣候は概して海候にしてフリエスランド並に東部の地にありては稍、大陸的なり、氣温は甚しく低下することなきも不同にして變化し易し、濃霧屢、起り降

雨も亦少なからず

人口は四百八十六萬に近くして一方籽に付き百四十七人なり而して種族上に於てはオランダ人(四百四十六萬)、ドイツ人(三萬)、ベルチック人(一萬四千人)等ありて信教上に於ては新教に二百七十三萬人、天主教に百六十萬人、ロシア教に十萬人、其の他に八萬人あり、教育は普及せずして下等社會には無知の者多きも、之に反して中等社會以上は教育の恩澤に浴せり、ライデンの大學は往古の隆盛を見ざるも亦王國各種學校の首位を占むるに耻ぢず

オランダは立憲代議君主國にして立法權は上下の二院に屬し、地方議會の權限は甚だ大なり、而して行政上は全國を十一州に區別せり、兵備は陸兵に二萬八千人ありて兵艦に九萬六千噸あり

ポルデル井にオランダの平野は地味極めて豊なれば、農業は大に發

達して耕種の業は大に進歩したり、殊に麻類、煙草等を栽培す、牧業は主として牛を飼ひ、漁業は、鯨鱈を與へ、花園は、珍花奇卉を與ふ、而して工藝はフリエスランドの麻布、トリブルヒの羅紗、エトレックの天鵝絨、グーダの煙管、アムステルダム、の寶石細工、ザアシダムの造船等あり、オランダの商業は内外共に頗る盛なるが、貿易は輸入に十四億六千萬、フッリンありて輸出に十一億、フッリンあり

	飲食品	原料	製品	雜貨
輸入	四四〇	五二六	二三九	二四〇
輸出	三八四	三六六	二三六	一二五

ハアグ(二八、〇〇〇)は王國の首都なるが海岸井にシエヘニンゲンを距ること凡そ一里の處に建設せられたる美麗の都會なり、ロッテルダム(二八、〇〇〇)はマアス河に瀕す、船舶の碇繋に便にして王國第一の商港たり、盛に殖民

地の貨物を輸入す、デルフト(三、二〇〇)はワールテルシニアの學校を有す、ライデン(四、五〇〇)は有名の大學校を有す、又毛布を製す、ハアルレム(六、〇〇〇)は花園を以て名を知らる、アムステルダム(四、〇〇〇)はグーデルシールの南西隅に於ける一小灣に頻しアムステル河に接す、運河多く交通の便を備ふる一大商港なるが市街は殷富にして金融上の一大中心なり、又金剛石の細工并に賣買を以て名を知らる、ユトレヒト(九、四〇〇)は大學校の所在地にして羅紗、天鵝絨を製す、マアストリヒト(三、三〇〇)は軍府の一にして石材を産するを以て名あり

殖○民○地 ○ オランダは強大國の間に介在せる小國なれば夙に富源を海外に求むることに奴力して遂に廣大なる殖民地を有するに至りしが、戦亂の爲め大に其の境域を縮小せられたり

領 地	地 積	人 口	方 料 三 付
東印度諸領地 シアム、マソラ 外部領土	一三、一五三三 一八四、七三三九	二四六四、二九八五 八四七、八三〇〇	一八七 四
西印度諸領地 クラツ スリナン	一一三〇 一一、九一〇〇	四、七三三九 七、〇九〇〇	四二 〇、五
合 計	二一〇、八九九二	三三三三、九四〇〇	一六

○ルクセンブルグ大侯國

ルクセンブルグは舊ドイツ聯邦の一部たりしか、一千八百六十七年以來、ヨーロッパ諸強國の認めて以て中立國と爲せし所なり、君主にはナッサウ家の男系の子孫を戴くも自治の國にして特別の政治機關を具備せり、プロイセン、ベルジック、フランスの間において地積は二千六百未滿の方料を有するに過ぎず、人口は二十一萬餘なるが概して舊教に屬し、ドイツ語を用ふ、首府ルクセンブルグ(二、〇〇〇)

はモゼル河の支流たるアルゼットに源せり

● ベルジック王国

ベルジックは西部エッロップの一小國なり、北はオランダに境し、東はドイツ并にルクセンブルグに接し、南はフランスに隣し、西は北海に瀕して、地積は二萬九千四百五十七方呎なり、六十七呎の延長を有する海岸の附近には海面より低き耕地の存するあるも、東并に南東に趣くに從ひて土地は漸次に隆起しアルデンヌ臺地のバラックミシエルは王國の最高處にありて海拔は六百七十五米突に達せり、而してサンブル、ムーアの兩河は北西の低地と南東の高地との區畫を爲せり、又砂丘の存する沿海の地には數百年來多少の變遷ありてロムバルデード、ブリッポ、マンム、エクリッポ、等の港灣は砂礫の閉塞する所と成りて現時は北海

を距る數里の地にあり、兩フランドル并にシンペリアにありては砂地多く、肥沃の地として有名なるワエスは沼地の乾涸せしに外ならず、而してポルデルは築堤の保護に依りて良土と成りたり、當國は灌溉の利を享受するも主要なる河流に就きては其の全部を有することなし、ムーズ河は丘陵の地を流れエスカウ河は平野を潤すも二流共に水源をフランスに發し、オランダに至りて海に注げり、氣候上に於てはベルジックの國を二帶に區分するを得、西部の一帶は海候にして氣温低からず、濕氣多し、東部の一帶は陸候にして寒氣凜烈、濕氣甚少し、而して全國の平均温度はブリッセルの平均温度に似たるものにて凡そ十度なるが春季は九度強、夏季は十七度強、秋季は十度強、冬季は三度弱なり、人口は六百四十一萬餘なれば方呎に對する人口は二百十八人なり、而して之を言語に依りて區分すれば二百四十八萬人はフランス語の

みを用ひ、二百七十四萬人はフラマン語のみを用ひ、三萬三千餘人はドイツ語のみを使ふ、其の他、フランス語とフラマン語とを用ふるものに七十萬あり、フランス語とドイツ語とを用ふるものに五萬八千あり、フラマン語とドイツ語とを用ふるものに七千餘人あり、フランス、フラマン、ドイツの三語を用ふるものは三萬六千餘人なり、宗教に就きては國人の多數は天主教を奉ずるも、宗教の自由は憲法の保障する所にして一萬五千の新教信者と三千のチャプア教信者あり、教育に就きては初等教育は強制的ならざるも各町村は少なくとも一ヶ處の小學校を設けて貧民の子弟には無謝儀にて學業を修めしむべき義務を有せり、又主要なる都會には男女の中等學校の設けあり、四ヶ處の大學校中、ガンビリエーゴに於けるものは國立にしてルーベンのアルママテル大學は教會の維持に係り、ブリックセル大學は私立にして自由黨の保護する所なり。

り、此の外、アンペールは美術大學校を有し、ブリックセル、アンペール、ルーベンは音樂學校を有せり、ベルジック國は立憲代議君主國にして君主は平時の四萬八千人、戦時の十一萬五千人より成る軍隊の元帥たり、立法權は元老代議の二院に委ねられ、行政上は全國を分ちて九州とし、各州に知事と州會とを置き、町村に主長と町村會とを置く、殊に記し置くべきは撰擧權の普通一般なるも資力又は智力に依りて複票權を享有するにあり、財政に就きて一言せんに、歳入に三億九千七十六萬フランありて、歳出に三億九千四百五十三萬フランあり、而して國債の高は二十二億四千四百八十五萬フランなり。

生業は五十年來長足の進歩を爲し各業共に繁盛を極む、農業は亞麻、煙草、ホップ、穀類等を産し、花園には裝飾的植物の栽培あり、リエーヴォ、シヤ

ルルロワ、モンヌは石炭を採掘し、サンブル、ムーズの流域には産鐵の地あり、又工藝には製鐵、鑄鐵、兵器、羅紗、毛布等の製造あり、貿易は輸入に十億七千五百萬フランあり、輸出に十三億五千六百萬フランあり、穀類、木材、化學的製品、生毛等を輸入し、穀類、麥粉、石炭、砂糖、機械、革、麻糸等を輸出せり、而して此等の貨物に就きて百分比例を作れば次表の如し

	飲食品	獸類	原料	製品
輸入	三三	四五	四六	一六、二
輸出	二七	二、七	三九、九	三七、四

ベルツックは交通機關の完備せる點に就きては世界第一と稱せらる、鐵路と云ひ、航路と云ひ、何れも充分に發達して内部に於ける工藝の中心と邊境に於ける各地との間を連絡せり、されば國域の少なるに拘はらず、鐵路は四千五百六十軒に達し、郵便は八百三十餘局を有し、電信線は

六千三百二十六軒の延長を有せり

ブリッセル(九〇〇〇)は王國の首都にして官衙あり、寺院あり、大學校、音樂學校あり、商業工業共に繁盛なるが殊に印刷業、樂器の製造、裝飾品の製作等を以て著しとす、而して此の地の近傍にはイクセル、ラエケン、シヤエル、ベーク等の市街あれば之を合併すれば人口は四十萬以上に達す、ベシ、ワートルローはナポレオン敗戦の地として有名なり、アンペール(三、〇〇〇)はエヌカッ河に瀕す、全國第一の軍府にして附近には堅固の砲壘を備ふ、エッロッパ屈指の良港にして取引は甚だ盛なるが、コーヒー、米、砂糖、茶、香料等の殖民地産物又は穀類を輸入して麻布、羅紗、兵器、機械等を輸出せり、又工藝としては造船、製穀、絹布、飾具の製作等あり、ガン(二六、〇〇〇)はエヌカッ、リース兩河の合流の地にあり、往昔の盛大を見ざるも又盛に綿布、麻布、鑄物、機械等の製造に従事す、リエーヨ(二六、〇〇〇)は鑄物、兵器等

を製作す、此の外、ツルチイ(三、五〇〇)は敷物を製し、クールトレイ(三、二〇〇)は麻布の産地なり、マリィヌ(五、四〇〇)はレースと敷物とを造るルーレル(三、二〇〇)は麻布の集散地として名あり、シブルルワ(三、三〇〇)は煤田の中心にありて盛に冶金業に従事す

● フランス共和国

フランスは西部エウロッパの大國にして不正六角の形狀を有す、北西は北海、カレール海峡、マンシヤ海に瀕し、北東にベルチック、ルクセムブルグ、プロイセン、エルサツス、ロトリンゲンを控へ、東はドイツ、シツワイツ、イタリアに境し、南は地中海に望み、南西はピレネー山脈に接し、西は大西洋に沿ふ、而して五千二百軒の國境中、二千五百軒は陸境にして二千七百軒は海境なり、地積はコルス島を合せて五十三萬六千四百餘方軒あるが我

が帝國より大なること其の五分の一強なり
山岳 アルプ山系、ピレネー山脈の如き顯著なる隆起帯は邊境にあり、内部は概ね平坦にして豊穰なる低地に富めり

アルプ山系	プロバンスアルプ	マンツィー(二、〇〇〇)
	ダッヒネアルプ	ピツィー(三、八三八)
	サボリアアルプ	イセラ(四、〇四五)
	モンニナルプ	モンブラン(四、八一〇)
ピレネー山脈	ホネツク(一、三六六)	マロンドルサス(一、二五〇)
シツワ	山脈	クレードラチーシヤ(一、七二四)
中央フランス山系	アラベルギヤ踏山	ドール(一、九〇〇)
	セマンヌ山脈	メゼン(一、七五〇)
	モルバン踏山	
	ランダル産地	

ビレチー山脈 ピーギヤール(三二九八) マルボ(三三五三)
 アヘンニン山脈 ロトンド(二七〇〇)
 河○流 其の數少なからず、就中セイヌ河は水量の増減著しからずして航行上に便益を與ふること甚だ大なり

河名	水 源	河 長	平水量	減水量	増水量	航行し得べき部
ムーズ	ラングル臺地	九五〇	一〇〇	二五	七〇〇	五七四
セイヌ	コトドール	七七六	三〇〇	七五	二五〇〇	五六五
ロワール	ピメレー山	一〇〇八	三七五	一〇〇	八〇〇〇	八二五
ガロンヌ	ビレチー山脈	六五〇	七〇〇	四〇	一、二〇〇〇	四七一
ローヌ	アルプ山脈	八二二	二二〇〇	五五〇	一、五〇〇〇	五三一

氣候 氣温は中和を得て健康に適せり、北西にありては海候にして變化少く、濕潤なり、中部殊に北東部に於ては陸候にして寒暑の差強

し、南西は稍、温和なるも南東は炎熱を覺ゆ、雨量は最多の處にて百五十種前後なるが、マンシ、海沿岸の地并に中央の山彙地方にありては百五十種以下百種なり又南部に於ては夏季にアフリカより來るシロココの熱風、冬季にアルプ山脈風しの寒風ミストラルの吹き荒むことあり
 人誌 人口は三千八百三十四萬にして一方秤に付きては平均七十人なるが、配付は一様ならずして、海岸、河流の沿岸、工業の中心等にありては住民稠密なるも山地、臺地等にありては稀薄なり、而して市街民と村落民との割合は次表の如くにして市街民は漸次に増加して村落民は漸次に減却するを見る

年 次	一八八六	一八七六	一八六六	一八五六	一八四六
市街民	三五、九五	三三、四四	三〇、五〇	二七、三一	二四、四二
村落民	六四、〇五	六七、五六	六九、五〇	七二、六九	七五、五八

又住民を國籍別にすれば國人に三千七百餘萬ありて其の他は外人なり而して外人中最多きはベルマック人(四萬)にして之に次ぐはイタリア人(三九萬)、ドイツ人(六萬)、シツワイツ人(六萬)、エスバニア人(七萬)、イギリス人(四萬)等なり、人口の増殖は極めて緩慢にして三百五十六年を経ざれば二倍せざる割合なり、從て海外に移住するフランス人の數は甚だ微々たるものなり

年次	一八九〇	一八八九	一八八八	一八八七	一八八六
移住者の數	二、〇五六〇	三、一三五四	二、三三三九	一、二七〇	七三二四

宗教上に於てはカソリック派に三千六百五十萬ありて新教に屬するものは六七十萬人、プロテスタント教を信するものは凡そ五萬人なり、又教育上にありては高等、中等、初等の別ありて各種の機關を具備せるが全國を十六大學區に分ち各區に總理を置きて之を監督せしむ、而して初等教育

は無月謝にして強迫的なるが一千八百八十六年に於ける生徒の數は六百二十五萬なり、又フランス人の氣質に就きて一言せんに活潑機敏寛大、有爲にして殊に交際に長せり、然れども輕卒にして忍耐力に乏しく、奇を好み新を慕ふの僻ありて工藝、學術等に身を委するもの少なからざるも亦功を一簣に缺くの弊なき能はず

政誌 政體は一般投票を基礎とする民政共和國にして立法權は元老院と代議院とに依りて實行せられ、行政權は共和國大統領に委ねられ内閣は内務、法務、外務、財務、陸軍、海軍、教育、工務、商工郵便電信、農務、殖民の十一省の長官より成りて、地方の行政上は八十六縣、一領地に分たる、又司法上に於ては一の大審院と二十三の控訴院とを設け各縣に重罪裁判所を置き、各郡に始審裁判所を置き、各カントンに治安裁判所を置けり

フランスは兵備上、世界屈指の強國なり、陸軍には十九軍團一軍團はアルジェリアにありを置き、常備軍は士官二萬八千餘人、下士卒五十四萬四千餘人より成り、別に二萬五千餘の憲兵あり、又軍馬の數は十四萬一千餘に達せり、而して戦時に於ては現役豫備を合せて二百萬人、之に後備の一百八十萬を加ふれば三百八十萬人と成るなり、次に海軍は海岸を五區に分ち、ローン、シエル、ブレスト、ロシポール、ロリアンの五ヶ處に軍港を設けて、海岸の防禦に當らしむ、兵艦は四百四十八隻、六十三萬噸、六十九萬馬力にして二千三百門の巨砲と二百個の水雷發射管を備ふるが、帶甲艦中には戰闘艦二十七隻(三萬噸)、巡航艦七隻(七萬噸)、海防艦九隻(九萬噸)なり、而して軍人軍屬の總數は六萬八千に達せり、重税を負擔するの點に於ては世界第一の國なるが、一千八百九十五年の豫算は次表の如し

	本 國	アルジェリア	合 計
歳入	三、七五八、八三九 <small>フランク</small>	四、三三五、五六六 <small>フランク</small>	三、四二七、四三六 <small>フランク</small>
歳出	三、五〇三、九七一	七、四七、八三五	三、四〇〇、八〇六

而して國債、恩給等の爲に支出する金額は凡そ十二億フランクにして、國債の高は債務に凡そ三百十一億フランクありて、債權に凡そ十二億フランクあり

生業。フランスは十二農區に分たるるが、總地積五十三萬六千方拵中より市街、河流、不毛の地等の九萬六千方拵を扣除すれば、殘餘の四十四萬方拵は農産地にして之を區別すれば、耕地(三五萬)、葡萄園(二萬)、森林(九萬)、牧地(六萬)等を得るなり、而して農産物に穀類、馬鈴薯、甜菜、煙草、葡萄、橄欖等あり、林産物に數種の木材あり、畜産に馬(三〇〇萬頭)、驢馬(七〇)、牛(三〇〇)、羊(三〇〇)、豚(五〇)等あり、其の他に家兔(三〇〇)、家禽(七〇〇)、繭(五〇萬斤)、蜜蝋(六〇萬巢)

あり、鑛業は甚盛なりと云ふを得ざるも石炭(三〇〇萬噸)、鐵(三〇〇)、石材等を産し、紡織業は毛布、絹布、敷物等を製し、各種製糸の産額は毛糸(三〇〇萬)、絹糸(五〇〇)、綿糸(三〇〇)、麻糸(三〇〇)等なり、化學、工藝は香水、石鹼、製紙、製油等を與ふ、此の外、陶磁器、玻璃器、時計、パリー雜貨の製出あり

貿易は一般に四十七億九千四百萬フランクの輸入と四十一億二千五百萬フランクの輸出あるが、特別には三十八億五千萬の輸入と三十億七千八百萬の輸出ありて、通過には五億三千万あり、而して特別貿易に就きての輸入國はイギリス、ベルヅック、合衆國、ドイツ、ロシア、イギリス領、インド等にして、輸出國はイギリス、ベルヅック、ドイツ、合衆國、シウヰツ、ニス、パニア等なり、又貿易品の主要なるものは輸入に穀類、生毛、油料、生糸、木材、石炭、綿、畜類等ありて、輸出に毛布、葡萄酒、絹布、パリー雜貨、革、生毛絹布等あり、即、此等の品種に就きて百分比例を作れば

輸入	三〇、六	六、四	五七、二	五、八
輸出	二二、三	一、七	二〇、四	五五、六

次に商港の主なるものはマルセイユ、ルアーブル、ポルドー、ドンケルク、セット、ルーアン等にして、出入船舶の概況を記すれば、次表の如し

入 之 部			出 之 部		
船種	隻數	噸數	船種	隻數	噸數
フランス船	七四九六	三八九、一八一六	フランス船	七二六九	三七三、三九〇五
外國船	一七七五〇	九二四、七〇八七	外國船	一二八〇五	五三五、一九一一
合計	二五二四六	一三四九、三九四〇	合計	二〇〇七四	九〇八、五八一九

交通上の機關は鐵路に四萬二百軒あり、航河に四千八百軒、運河に五千五十軒あり、而して商船は帆船に一萬四千隻、三十九萬噸ありて、汽船に一千二百隻、八十九萬噸あり、其の他郵便局は八千二百餘ヶ處に設け

られ、電信線の長は九萬六千餘軒に達せり

パリ(四、五〇〇〇)はフランスの首都なるが人口、工業、富力等に就きてはロンドンに次げる大都會にして文藝、學術、政治等に就きてはエトロッパ屈指の大中心なり、而して建築の宏大美麗なる、街衢の廣潤清潔なる、實に世界第一たり、寺院にはノートルダム、パンテオン、マドレーヌ、セント・ピエールあり、宮殿にはルーブルあり、大劇場にオペラあり、記念碑には凱旋門あり、バンドーム并に七月の大柱あり、其の他に府縣、隱退院あり、又工業にはパリ雜貨、機械、衣服、飾具、書籍、家具等の製作に従事す、パリは一大軍府として周邊に胸壁を圍ひ、附近には十六ヶ處の砲壘を築造せり、ベルサイユ(五、〇〇〇)は壯觀の宮殿庭園を以て名あり、カレ(五、六〇〇)ブローキヤ(四、五〇〇)は繁昌なる商港なり、リニエ(三、〇〇〇)は軍府の一なるが又工藝の一大中心として麻布、レース、砂糖、機械等を製す、ルーベ(二、五〇〇)

ツールコワン(六、五〇〇)は麻布、敷物を製す、ドンケルク(四、〇〇〇)は當國第四の商港として名を知らる、レンヌ(二、〇〇〇)は歴史上著名の地なり、毛布を製し、葡萄酒を賣買す、ルワゾン(二、〇〇〇)は織物、砂糖、陶器を産す、又第六の商港として名あり、ルアーブル(二、六〇〇)はセイヌの河口にあり、全國第二の貿易港なるが殊にアメリカと取引を爲す、シエール(三、八〇〇)は一等軍港の一なり、防禦工事の壯大なるを以て有名なり、ブレスト(七、五〇〇)は軍港の一なり、造船所を有す、ナント(三、〇〇〇)はセンナセル(二、〇〇〇)と相待ちて盛に商業造船業に従事す、リモージュ(七、〇〇〇)は磁器を製す、ロシ、ポール(三、三〇〇)は軍港の一なり、ホルドー(三、五、〇〇〇)はフランス第四の大都會にして第三の商港なり、葡萄酒、銘酒を輸出す、ツールーズ(五、〇〇〇)は軍府の一なるが文藝又は商業の中心として名を知らる、セト(三、六〇〇)は第五の商港たり、リオン(四、〇〇〇)はフランス第二の大都會にして盛に工業商

業を營めるが、殊に絹業を以て有名なり、又一大軍府として中部の巨鎮たり、セントナエンヌ(三、〇〇〇)は産炭地にありて治金業上、當國第一の中心なり、又織物を製す、マルセイユ(四、〇〇〇)はフランス第三の大都會にして地中海第一の商港なり、穀類を輸入し織物、葡萄酒、果物を輸出す、又造船に従事し石鹼を製す、ツィロン(七、七〇〇)はフランス第一の軍港たり有名の造船所あり

殖民地 殖民事業に關してはフランスは前世紀の盛大を見る能はざるも亦第一流の殖民的強國たるを失はず、今茲に一表を作りてフランス附屬の土地に就き面積住人等を記せり

地名	面積	人口	地名	面積	人口
アルジェリア	七九、七五〇	四一七、四七〇	マルチニック	九八八	一八、七五九
チュニジア	九、九六〇	一、三〇〇、〇〇〇	グイヤナ	七、八九〇	二、九六五〇

西アフリカ	?	二、三三〇、〇〇〇	アメリカ部	八、一九九三	四四、四四一六
ダホメイ	?	六〇〇、〇〇〇	新カレドニア	一、九八三	六、二七三二
コンゴ	?	五〇〇、〇〇〇	ポリネシア	九六	五〇〇〇
ウバングー	?	二、二〇〇	フツナアロヒ	一五九	二、六九五〇
オボック	?	二、二〇〇	其他	四一四	九、四七〇〇
アフリカ部	?	三、八一、七〇〇	南洋部	二、四一九三	九、四七〇〇
印度	五〇九	二八、三〇三	マダガスカル	五九、一九六七	三、五〇〇、〇〇〇
印度支那	七〇、五二〇	二、三六九、一〇〇	レウニオン	一九八〇	一六、七八七
アシア部	七〇、五六三〇	二、三六七、五〇〇	其他	六五五九	七、〇〇〇
ミクロン	二三五	五九二九	印度洋部	五九、九四〇六	三、七四、八〇〇
グアドルッパ	一六〇三	一六、七〇九	合計	?	四、〇六一、〇〇〇

● イギリス王國

境域。ブリタニア群島は太西洋中にありてエウロパ洲の北西にあり群島は大ブリタンとアイアランドとの二大島并に數多の島嶼より成れるが北西は太西洋に臨み東は北海に瀕し南はマンシヤ海峽を隔ててフランスに對せり地積は三十一萬四千六百二十八方寸なれば我が國の四分の三に當れり

二大島以外の島嶼には北西にヘブリッ諸島あり、北にオークテイ、シエトランドの諸島あり、中部にマン島、ブングルシー島あり、南にシルリー諸島、アイト島、グエルメシー島、ジューシー島等あり、海岸は概して風曲に富めるが太西洋はアイアランド島に下子ガル、ガルエイ等の諸灣を爲しイングラランドにブリストル灣を爲せり、北海は大ブリテン島の東岸に於てムーライ、ホース、ソッシ等の諸灣并にホンバー、ティムスの河口を爲せり、北は北の水道に依り、南はセントジョージの水道に依りて太西洋に通ずるアイアランド海の北にクライド灣あり、又阿崎の著しきものは大ブリテン島の北にダンカンズビー岬あり、南

にラングゼンド、ホーアランドの二所あり、アイアランド島にはマリンベグ、ミゼン等の諸岬あり

山。土地の起伏に就きて記さんに大ブリテン島にありてはケランピアン山脈は南西より北東に趨き四百軒に亘りてスコットランドをラウランド地低
ミハイランド地高に分つ、其の最高峰はベンチピス(一三四三米突)なり、ブーリス

に於けるカンブリアンマウンテンズの最高處はスナウドン(一〇八九)なり、イングラランドの南東部は平低にして多少の丘陵の存するあるも其の海拔は著しからず而して海岸は北、西、南西にありては花崗岩的なるも南東は白堊的にして東は砂澁を爲せり、アイアランド島の中部は平低にして海拔は七十五米突前後なるが南西部は最高く北部と東部は之に次げり

水。河流は短少なるも中流以下は廣潤にして航行に適するもの多し、北海に注ぐものはホース、チード、タイス、ハンバー、アウス、ティムス、等にして太西洋并にアイアランド海に注ぐものはセムニス、マリーシー、クライド、ジャンソン、等なりとす、又沼湖に就きてはスコットランドに於けるものは稍著しく、チムス

湖の如きはカレドニア運河を爲すを以て名あり、而してアイアランド島にありては沼湖の数は少なからざるも水底淺くして實際に便益を供するものは稀なり

氣候 群島の周圍に於ける海水が比較的に高温なるに依り氣候は概ね温和にして變化少なく殊に濕潤を覺ゆ、アイアランド(北緯五十二度)の平均温度は合衆國の北緯三十八度下に於ける平均温度に等しく、同じ平均温度を有するスコットランドの北部とアメリカ洲とを比較すれば緯度に二十度の差あり、而して冬季の寒氣はヘブリッス諸島よりティムス河畔に強し又群島には曇天多く濃霧屢起りて咫尺を辨すること能はざることあり殊にロンドン、マンチエスタ、パリーミンハム等の如き市街の地には黃霧の爲に空氣の流通を妨げらるることあり、降雨は西部、南西部并に山地に多く、降雪は海濱に稀にして積雪を見るは山岳地方に限れり

人誌 大ブリテン、アイアランド聯合王國の人口は三千九百十三

萬餘なるが之を三部に區分すればイングランドの三千三十九萬人、スコットランドの四百十五萬人、アイアランドの四百五十八萬人を得るなり、而して方料に就きての人口は百二十六人なり、人口の増殖は平均一ケ年に凡そ四十萬人なれば八十五年乃至九十年を経る毎に人口は二倍する割合なり、而して外國に移住するものの數は毎年凡そ二十萬人にして一千八百十五年より九十四年までの往住者の數は凡そ一千四百萬人に達せり、而して外國より來住するものの數は毎歲凡そ十五萬人なりと云ふ國人の多數はイギリス語を用ふれども百八十五萬人はセルト語を用ふ、又宗教に就きては各派の新教信者を合せば三千五百萬以上に達し、殘餘はローマンカソリック教に屬するが主としてアイアランドに居住せり

又一千八百九十一年の調査に依り住民を營業別にすれば次の如き

表を得なり

	イギリス	スコットランド	アイアールランド
農業漁業	一三三、六九四五	二四、九一二四	九三、六七五九
商 業	一三九、九七三五	一八、〇九五二	八、三一七三
工 業	七三三、六三四四	一〇三、二四〇四	六五、六四一〇
庶 業	九二、六一三二	一一、一三一九	二一、四二四三
使 役	一九〇、〇三二八	二〇、三一五三	二五、五一四四
無職業	九一五、四三七三	二二四、八六九五	二五五、九〇二一
十歳未満	六九四、八六六八		
合 計	二九〇〇、二五二五	四〇二、五六四七	四七〇、四七五〇

教育は盛にして全國に普及せるが殊にスコットランドを以て然りとす、從て教育的機關は階級相應なるものを具備して高等教育は八ヶ處の大學を有せり、就中カンブリッジ、オクスホード、ロンドン、エディンバラ、グラスゴウ、マンチン等を以て著名なりとす、又イギリス人の氣質に就きて

一言せんに、イングランドの人は思慮深く政治思想に富み、殊に工業、商業、殖民業等の實業に巧なるが、美術に長するよりは寧ろ科學を得意とせり、而して其の缺點を擧ぐれば自尊に過ぎて利己に傾き易く、殊に未開の民を遇するに暴戾の形跡あるを認めざるを得ず、スコットランド人は傲慢にして感激し易きも亦萬事に意を用ふること極めて切なり、アイアランド人は輕卒に過ぐるの嫌あるも寛大にして機敏なり、政誌。政體は立憲君主國にして君主は大ブリタン、アイアランド聯合王國皇帝と稱し、信教の擁護主を兼ね、而して殖民地に施行すべき法令に對しては全印度皇帝と自署す、法律の制定は國會の議決に依り、皇帝は之に對して認下權を有せり、國會は上下の二院より成れるが貴族院は五百四十三人の議員を有し、衆議院は六百七十人の議員を有せり、内閣は首相、國璽、國庫、王璽、首班、財政、内務、外務、拓殖務、軍務、印度、海軍、商務、農

務、工務の諸卿、并にアイアerland、スコットランド行政監督署の長官等より成れるが、施政に對し責任を有せり、地方は行政上、若干のシャイアに分たれ、イングランドは四十二、ワイルスは十二、スコットランドは三十二、アイアerlandは三十二のシャイアを有す、又司法に關しては上等法院、控訴院、高等法庭等あり

兵備は陸軍に平時の士官一萬餘人、兵卒二十二萬人、軍馬二萬六千頭ありて、戰時の士官二萬五千人、兵卒七十萬人、軍馬五萬八千頭あり、海軍は世界第一なるが、新式兵艦に二百十二隻、七十四萬餘噸、百三十八萬馬力ありて、巨砲一千五百門、水雷發射管七百五十個、乗組五萬二千餘人を備へ、舊式兵艦に二百三十五隻、五十一萬餘噸、三十七萬馬力ありて、巨砲一千二百門、水雷發射管百七十五個、乗組三萬七千人を備ふ、此等の兵艦中にて甲鐵を帶ぶるものは新式に八隻ありて、舊式に四十八隻あり

財政に就きては一千八百九十四年度の豫算は歳入歳出共に二億三千萬磅にして、國債の高は六億五千七百萬磅に達せり、
 生業。農工商は共に發達して、當國の富力をして偉大ならしめたるが、殊に商工の二業は世界第一にして、實に空前の盛況を呈せり、而して其の原因たるや、石炭と鐵とに富めるを第一とし、製作品の販路に當れる殖民地の饒多なるを第二とし、世界各部の間に於ける交通上の機關たる船舶を十分に備ふるを第三とし、國人に有爲、着實、忍耐、不撓等の美性あるを第四とす

先づ農業に就きて記さんに、土地は概して大農に屬し、八町歩以上の地主は百分の九十三強に達すと云ふ、殊にアイアerlandにありては耕地は僅少の豪族の間に分たるを以て、農民は殆ど小作人たるに過ぎず、而して農産は馬鈴薯、亞麻、大麻等にして、イングランドの南部にありては

果樹の栽培を見る、又土地の濕潤にして氣候の海洋的なるは牧草の生育に適するを以て養畜の業は甚盛なり、豚は各地に産し、其の他、牛、羊、馬は何れも良種として名を知らる、森林は多からざるが、アイアランドには皆無なりと云ふ

工業の状況を記さんに、機械の進歩改良が最高の度に達したるが爲め、全地球をして當國製作品の供給を仰がしむるに至れり、採鑛業は石炭を、ソーサー、ナピル、パーミン、ハム、ランカスター、ノーカッスル、グラスゴウ、等の煤田より出だし、鐵を各地に求む、其の他に銅、鉛、錫、岩鹽等の産あり、工藝の中心は全國到る處に存在して、鑄物、機械、兵器、及物、針、時計、車輛、陶器、等を製せり、殊に織物業は著しくして、綿布、縲紗、絹布、レース、麻糸、麻布等を興し、貿易は一千八百九十四年に於て輸入に四億八百三十四萬磅ありて、輸出に二億七千三百八

十六萬磅あり、之を國別にすれば輸入國には合衆國、フランス、オランダ、ドイツ、等ありて、殖民地に、オーストラリア、新ゼイラント、印度等あり、輸出國には合衆國、ドイツ、フランス等ありて、殖民地に印度、オーストラリア、新ゼイラントあり、又貿易高を品種別にすれば輸入に穀類、實綿、生毛、肉、バター、及、チーズ、砂糖、木材、絹布等ありて、輸出に綿布、石炭、鐵、機械、毛布等あり、從て百分比例を作れば次表を得るなり

輸入	四八、	三、四	三七、八	一〇、七
輸出	—	—	二二、二	七七、九
飲食品		畜類		原料
				製品

又船舶出入の情況は次表の如し但し萬噸を單位とせり

年次	入		出	
	イギリス旗	外國旗合	イギリス旗	外國旗合
一八六〇	六八八七	三三、三	七〇二五	五四九〇
		計		計
		三三、三		二五、六

航 行	海 岸	行 航
一八九四	一八九三	一八九三
五二八七	五〇二八	二六九、七
一六九	一五三	一〇三、三
五四七	五二二	三九八、八
四六三	四八六	二九六、八
一一五	一〇五	一〇六、二
四七八	四三二	三三六、〇

而して商港の主要なるものはロンドン、リヴァプール、グラスゴウ、ロンドン、ブリクスタウン、プリストール等なり

鐵路の長は三万三千六百四十八軒にして之れを三部に區分すれば、イングランド、ワイルスの二萬三千三百九十三軒、スコットランドの五千三百五十六軒、アイルランドの四千八百九十九軒と成るなり、此等の長を地積に對比すれば、世界屈指の鐵道國たるの實あり、從て交通上に利便を供すること甚だ大なり、就中ロンドンの市街鐵道は市内の各區

の間を連絡せり、又商船は帆船に一萬二千六百四十八隻、二百九十六萬噸ありて、汽船に八千二百三十三隻、五百九十六萬噸あれば、合計は二萬八千七百七十九隻、八百九十二萬噸なり、而して之に殖民地に於ける一萬五千三百二隻、百五十八萬噸を加ふれば、如何に當國の商船の富力の強大にして世界第一と稱せらるゝの實あるを知るに足らん、此の外、交通的機關としては郵便局を二萬餘ヶ處に設け、電信局を八千五百餘ヶ處に置けり、且又國設の電信線は五萬五千軒に亘れり

イングランド、ロンドン(圖三、〇〇〇)はティムス河に跨る、聯合王國の首都なるが、人口、富力、商船、商業、工業等に依りて世界第一の市街たり、寺院、家屋等の建築は美ならざるに非ざるも、港、船渠、倉庫、工場、工場の廣大なる天下に其の比を見ず、工藝の中心としては絹布、馬車、刀物等を製作し、世界の最大市場としては商業上の稱權を握りて五大洲に號令す、實に盛

を極むと云ふべし、又幾多の學校學會の設けありて文學科學の社會に於ても第一流の都府たり、グリニオン井チはロンドン（二、九〇〇）の近傍にあり有名の天文臺の所在地にして本初子午線は此の地を通過す、ブリートン（二、九〇〇）に海水浴場あり、ポーツマウス（七、〇〇〇）は一大軍港を有す、サッサムプトン（六、五〇〇）は渡洋船の出入する處なり、プライマウス（八、九〇〇）は軍港を有す、ケリムトル（三、六〇〇）は五大商港の一にして銅、亞鉛、砂糖を輸出す、カルヂー（五、〇〇〇）は石炭を産す、バーミンガム（五、〇〇〇）は冶金業の一大中心たり、マンチェスター（三、〇〇〇）はレースを製す、レイモスター（七、〇〇〇）は毛織靴下を製す、羊の市場たり、ヨーク（七、〇〇〇）は歴史上有名の地なり、シヒエル（三、〇〇〇）は鋼鐵、刀物を製す、リーツ（九、〇〇〇）は羅紗、陶器を産す、ブランドホーヴ（三、〇〇〇）は敷物を製す、ヒール（三、〇〇〇）は捕鯨に従事す、屈指の商港たり、ロンドン（五、〇〇〇）は絹布の市場なり、世界第三の商港たりしが近來此

の地位をハンブルグに譲りたるが如し、マンチエスター（五、〇〇〇）は綿布製造の最大中心にして此の地に産する織物は地球の各處に普及せり、近傍にサルホード（三〇、〇〇〇）、オールドハム（三、〇〇〇）、ブレントン（二、〇〇〇）、ホルトン（三、〇〇〇）、ブラックバース（三、五〇〇）等の市街あり、何れも繁昌の地なりとす、ニールカッセル（一八、〇〇〇）は産炭地にあり、サンデルランド（三、六〇〇）と共に盛に石炭を輸出す

スコットランド エチマバラ（三、〇〇〇）は舊都の地なり、工業並に學術會社の中心たり、メンヤ（五、〇〇〇）は麻布を製し、アバーナン（三、五〇〇）は捕鯨に従事す、グラスゴ（七、〇〇〇）はクライド河に瀕す、聯合王國第二の都會なるが盛に綿布、モスリンを製す、又冶金業並に造船業に従事す、アインズラング（三、五〇〇）は舊都の地なり、商業に従事す、グレンコ（三、五〇〇）は麻布を製す、グーディ（七、五〇〇）は商港たり

殖民地。イギリスは殖民事業上、世界第一の國なるが、領土は五大洲の各部に散在し或は天産國として原料を供給し或は消耗地として製品を需要し以て本國の繁榮を促せり、茲に聯合王國所領の殖民地に就きて人口、地積等を掲げて一表を作りたれば此の國が殖民的強國として如何に盛大なるか、其の一斑を了知せらるべし

土地	地積	人口	方料三付
印度帝國	五二四、七三四〇 ^{方料}	二、九二八、一〇〇〇人	六〇
直轄地	二四九、九二六〇	二、二一七、二九五二	八九
間轄地	二六四、八〇八〇	七〇二七、二〇〇〇	二六
南部アジア	三六、二八一五	五二六、二〇〇〇	一四
セイラン	六、三九七六	三一七、四九五〇	四九
海峡殖民地	三九九八	五四、〇〇〇	一三五
香港	七九	二四、六〇〇六	一

地中海	地積	人口	方料三付
アフリカ	三五六、四二〇〇	一、三二〇、二〇〇〇	三
喜望峯殖民地	七四、六三三三	一七八、五〇〇〇	二、四
ナタル	四、二九二〇	五四、三九二三	一三
アメリカ	九四七、四七〇〇	六八〇、六二五〇	〇、七
カナダ領國	八七六、七七〇〇	四八三、三三三九	〇、六
アストラリア	八一九、六二六八	四六一、〇四〇〇	〇、五
南洋	四、三七九一	二四、九二〇〇	六
印度洋	二八一二	三九、七三七七	一四一
大西洋	一、二九〇九	二、一三四八	一、八
合計	二六八一、四八〇〇	三、二二三三、七〇〇〇	一、二

南部

●イペリア半島

本半島はヨーロッパの南西部にありて大西洋と地中海との間に介在し、北邊の一部はピレネ山脈に依りてフランスに連れり、地積はバレアル諸島を合すれば五十八萬六千方料と成るが、其中四十九萬五千方料はエスパーニア王國に屬し、殘餘の九萬八千方料はホルトガル王國に屬せり

海岸は概して風曲に富まざるが、太平洋に瀕する海岸は一千六百七十五料にしてビスカイユ、セチッパル、カサス、等の數灣を爲し、地中海の沿岸は一千一百五十料に亘るも顯著なる港灣を見ることなし

半島の中央は海拔五百乃至一千米突の土塊を形成し、山脈にて圍繞せらるる數個の盤地を地括せり、其の北にあるをレオン、舊カステルラの盤地とし、其の中部にあるを新カステルラの盤地とす、而して此の盡地より發出する谿谷は北にエプロあり、東にバレンシア、ムルシアあり、南にアンダルシアあり、西にホルトガルあり

ピレネ山脈はフランスとエスパーニアとの間に蟠繞せる山脈にして四百二十料に亘り平均の幅は百二十料に達せり、又主要の高峯はネビッソ(三三六七)アチト(三四〇四)等なりとす、カンタブル山脈はピレネ山脈に連續して五百五十料の長さを有するも最高峯ピコステエヤロッパの直立は二千六百七十八料に過ぎず、デマング並にモンカイヨのシエラは新舊のカステルラを分ち、シエラモレナは新カステルラの南にあり、シエラチバタはピレネ山脈より短きも海拔は三千四百八十一米突に達せり、此等の山脈は幾多の支脈を分派して一帯の高地を形成して殆どエスパーニアの全部を蔽へり

河流は長きも水量に乏し、春冬に稍多きも夏秋は極めて少なし、而して河床の傾斜は強くして交通上不便なり、茲に河流の主要なるものを擧ぐればエプロ、ゾーロ、タジオ、グアデアナ、グアダラキビル、等を得るなり

氣候は盡地にありては寒暑の差烈しく、地中海沿岸の地にありてはアフリカ的なり、大西洋沿岸の地に於ては濕潤にして溫和なるも山岳の附近に於ては寒暑の激變を覺ゆ、雨量の年平均はカビエドの二千六十程にしてマドリッド

の二百七十五度なり又平均温度に就きては半島の北部に十三度を示し南部に二十度を指せり

◎ エスバニア王國

人口は一千七百五十七萬なれば之を地積に對比するに方杆に付き三十五人と成るなり、エスバニア人はイベリア人にヘンシア人、カルタゴ人、セルト人、ローマ人、ゴス人、ゴッデア人、ベルベリア人、アラヒア人、黒色人等を混和せしものにしてエウロッパ人中にてアフリカの分子を含有する種族の一なり、是此の種族が熱帶地方に移住するに適する所以ならんか、國教はカソリック教なるが住民の殆ど全部は之を信奉せり、教育は不振にして下流社會には無智のもの多く教育費の如きは國庫の補助少なく町村又は親族の負擔するを主とせり、高等教育に關しては舊來の大學校の存するあるも其の効力顯著ならず

エスバニアは一千八百七十六年以來立憲王國と成りて、内閣は代議元老の兩院より成る國會の贊助に依りて政治に與れり、而して行政上は地方を四十九州、七總督府に區分せり、兵備は陸軍に平時の七萬人、戦時の十八萬人ありて海軍に兵艦四十四隻十一萬噸あり又歳入は七億四千五百萬ペセタにして歳出は七億三千九百萬ペセタなるが國債の高は五十九億六千二百萬ペセタに達せり

エスバニアに於ては水あるの地は必豊饒なり、カステラは麥を産し、地中海沿岸の地は柑類、無花果、桃、杏、石榴、橄欖、葡萄等を産す、然れども北部并に中部には無水の地、鹹水の平原ありて全く生産力を缺けり、而して山岳地方は鐵、石炭、水銀、鉛、銀、銅、亞鉛、食鹽等を生ず、貿易は輸入に麥、綿、石炭、木材、煙草等の七億七千萬ペセタありて輸出に葡萄酒、鉛、綿布、銅、鐵等の七億一千萬ペセタあり而して此等の貨物に就きて百分比例を

作れば次の如し

	飲食品	畜類	原料	製品
輸入	三割六分	—	四割五分	一割八分
輸出	三割八分	二分	四割三分	一割七分

エスバニアは交通の機關に乏しき國なり、河流の航行し得べきもの
 少なく、運河は極めて稀なり、鐵道は一萬一千軒ありて國都と邊境とを
 連絡して内部に於ける主要なる運輸機關たり、然れども商船は帆船に
 一千二百三十三隻、二十萬噸あり、汽船に四百七十四隻、四十六萬噸あり
 て盛に沿海を航行し又殖民地に關する貨物の輸出入に従事せり、又郵
 便局は二千九百餘ヶ處ありて電信線は二萬九千軒に達せり
 マドリド(四、〇〇〇)は王國の首都なるが、サンザオレス河に瀕す、市街は
 美麗なれども工業は振はず、ビルバオ(五、〇〇〇)は商港の一にして金屬類

を輸出す、サンタンアル(四、二〇〇)は繁昌なる商港なり、サラゴサ(六、二〇〇)
 は工業地なり、バルセロナ(七、〇〇〇)は軍府の一にして王國第一の商港な
 るが又工藝の中心として絹布、羅紗、綿布、レース等を製造す、バレンシア
 (七、〇〇〇)は絹布を製す、ムルシア(六、八〇〇)も亦絹業の中心たり、マラガ(三、〇〇〇)
 は商港の一にして葡萄酒を輸出し又冶金に従事す、セビラ(四、〇〇〇)は舊
 都の地なり、アルカザルの宮殿并に宏大なる寺院を有せり、カサス(六、二〇〇)
 はレオン島にあり一大軍港なるが又商業に従事す、バルマ(六、〇〇〇)はバ
 レアル諸島の首府にして葡萄酒、柑類を輸出す
 殖民地 往古は一大殖民的強國としてアメリカ洲の三分の二を保
 ち、アチャ、アフリカ等に多少の屬地を有して旺盛を極めしエスバニア
 國も漸次に其の版圖を縮小して遂に現今の情態を呈するに至れり、今
 茲に一表を作りて殖民地の面積、人口等を記せり

土 地	地 積	人 口	二 方 付 料
アメリカ部	一二、八一四七 方 料	二四三、〇二五三 人	一九
クマ	一一、八八三三	一六三、一六八七	一四
ブエルトリコ	九三一四	七九、八五六六	八六
南洋部	二九、八七七二	七〇三、〇〇〇	二三
アフリカ部	二〇三〇	三、〇〇〇〇	一五
合 計	四二、九〇〇〇	九四九、〇〇〇	二三

○アンドラ共和国

アンドラはピレネ山脈中にありて、四百五十二方呎の地積と六千の人口とを有する一小共和国なるが、エスパーニアのエルシエル正井にフランスに隣接せり、政權は六ヶ村より推舉せられたる二十四人の評議員に屬し、エルシエル正井にフランス政府は各一人の治罪官を駐在せしめ、又交會に一人の

民事官を派遣す、首府はアンドラにして八百五十人の人口を有せり

○シアラタル

シアラタル(三六〇〇)は舊エスパーニアに屬せしが一千七百四年以來イギリスの領する所と成れり、地中海の咽喉たるシアラタル海峡の一隅に於ける一小半島にして地積は五方呎に過ぎざるが堅城鐵壁の稱ある砲壘は直立四百二十九米突の岩石上にあり軍港とし倉庫地として有名なるのみならず又貿易港としては船舶の出入頻繁にして總噸數は九百二十五萬に達せり

○ホルトガル王国

ホルトガルはイベリア半島の南西部にありて、地積は九萬八千三百八十二方呎なるが五百十萬餘の人口を有するを以て方呎の人口は五十五人と成るなり、種族はエスパーニア種族に似たる所多けれども亦ア

フリカの分子の一層強さを観る、教育は不振にして普及せず又進歩するの望みなし、國教はカソリック教なれども多少の新教信者あり

政體は立憲君主的にして立法權は貴族と代議との兩院より成る國會に屬し、行政權は内閣に屬せり、而して行政上は地方を十七縣に區分せり、兵備は陸兵に平時の三萬四千人、戰時の十二萬人ありて兵艦に二十五隻、一萬九千噸あり、一千八百九十四年に於ける歳入は四千三百九十萬、ミルレイスにして歳出は四千一百二十六萬、ミルレイスなるが國債は六億七千萬、ミルレイスに達せり

農業は米、柑類、葡萄酒、果實等を與ふるも採鑛業は僅に少量の石炭、食鹽、銅等を産するのみ、其他、工藝の如きは更に振はず、貿易は一千八百九十四年に於て穀類、實綿、砂糖、魚類、石炭等の三千六百萬、ミルレイスを輸出し、葡萄酒、コルク、銅、畜類等の二千七百七十九萬、ミルレイスを輸出

したり、從て此等の貿易品に就きて百分比例を作れば次の如し

	飲食品	畜類	原料	製品
輸入	四一、〇	四、六	三五、四	一九、〇
輸出	六〇、二	九、七	二六、七	三、四

商船は二百五十八隻、八萬九千噸なるが鐵路に二千三百四十軒ありて電信線に六千四百軒あり

リスボア(三〇、〇〇〇)はタリフ・ノ・河に瀕す、王國の首都にして軍港と商港とを兼ね、イギリスの製品、殖民地の物産を輸入す、ポルト(四、〇〇〇)はツリ河に接し、盛に葡萄酒、果實等を輸出す

殖民地。往昔の盛大を見ざるも地積に凡そ二百十五萬方軒ありて住人に一千四萬二十餘萬あり

洲名	地名	地積	人口	方新ニ付
アフリカ	錫岬諸島	三八五一	一一、〇九二六	二九
	ギニア	三、七〇〇〇	?	一
	サオトメ嶋	九二九	一、八二六六	二〇
	プリンシペ嶋	一五一	二六六五	一八
	アンゴラ	一三二、五四六〇	一三四〇、〇〇〇〇	一九
東アフリカ	小計	七六、八七四〇	八〇、〇〇〇〇	一
	小計	二二二、六二三〇	一三三三、二〇〇〇	六
アジア	印度	三六五八	五一、四一六九	二六六
	マカオ	一一	六、七〇三六	一
オセアニア	小計	一、九九七〇	八八、一〇〇〇	四
	チモール及びカンピンゲ	一、六三〇〇	三〇、〇〇〇〇	一八
合計		二二四、六一〇〇	一四二二、三〇〇〇	七

● イタリア王国

イタリアは南ヨーロッパの中部にありて大陸半島嶼嶼の三部より成り、北はエステルライヒ、シロウィツに境し、北西はフランスに接し、西南東の三方は悉く海に臨めり、地積は二十八萬六千餘方杆なれば我が帝國の三分の二に當れり、

海岸線の延長は六千七百八十五軒に達するが、主要なる海灣はリギヤリア海、チルレニア海、イオニア海、アドリア海、ナポリ灣、サレルヌ灣、タラント灣、ベネチア灣、等にして重要なる地角は、シナ、オトランテ、ポニハシオ、ピオンビノ、等なり、又半嶋部は別にカラブレス、オトランテ、ガルガン、等の半嶋を形成してスバルチメント、サンタマリアアサレウカ、等の岬峰を以て終れり、而して嶋嶼にはシリブ、サルサニブ、エルベ、レパリー諸嶋あり、

山岳はイタリアの北境を爲す所のアルプ山脈と半嶋嶼嶼を通過するアル

ンニ山系に屬するが、顯著なる高峰ハツマ(二二〇〇米突)、エトナ(三三三三米突)は共に火山なり、又ストロンボリ嶼に於ける火山は活氣の盛なるを以て名を知らる

イタリヤの大陸部はアルプ山脈に圍まれ、河井に其の支流の爲に潤さる、本河の長は六百三十軒に過ぎざれども水量に富める點に就きてはエヴロツ川洲屈指の河流なり、水源をピソ山に發し、積雪氷河より湧出する水を左岸に受けて洪積地を潤す、河口はアドリア海にありて、毎歲凡そ七十米突づゝの突出を爲すと云ふ、アサツ河も亦アルプ山脈より流下して、河と共に三角洲を爲して海に注ぐ而して、半嶋部の河流は長からずしてアルノ(三三〇軒)、テメル(三七一軒)は稍著し

北部のイタリヤは陸候を有するを以て嚴寒酷暑を覺ゆ、然れども南下するに従ひて氣候は地中海的と成りて、冬季は溫暖を覺ゆるも夏季の温度はメシナミミフノとに大差なし、降雨は夏季に少なく時にシロツコ風の吹き荒むことあり

一千八百九十五年調に依れば人口は三千一百十萬人にして方料に付きては百九人となるが、住民の配布は均一ならずしてロンバルデアの一六九、カンパニアの一七二、リギリアの一七八なれ、悉もバツリカタにありては五二に下り、サルヂニアにありては三〇に降り、而して人口の増殖は著しくして生産數の死亡數を超過するは毎歲三十萬以上なるも亦海外に移住するもの多く其の數は平均二十三萬なり、信教上はローマンカソリックに屬するもの多く、新教信者は七萬にして、ワツデア教信者は四萬に近し、教育は振はざるに非ざるも未だ普及するに至らず、文字なきもの、數は一千八百八十八年に於ては四割以上なりしも近來は小學校を増設したるを以て就學者の増加を來たせり、此の外、中學は都會の地に設けられ、大學校は二十ヶ處にあり

政體は立憲君主國にして、君主は内閣と共に行政を司り、元老、代議の

而
 爾院より成る國會は君主と共に立法に従事せり、地方の行政には六十九州、二百八十四郡等の設けあり、イタリアは強勢なる兵備を有する國なるが陸軍に平時の二十五萬人、戦時の百五十萬人ありて、海軍に兵艦の三百三十四隻、三十三萬四千噸、軍人軍屬の二萬五千人あり、又財政に就きては歳入に十八億五千萬リラ、歳出に十九億一千萬リラありて國債に五億九千八百萬リラあり

農業はイタリア人の生業中の主たるものにて王國富力の首位を占む、灌漑の利あるポル河の平野にありては寸地の不毛に屬するなく、米、麥、蜀黍等の耕種盛に行はれ、リギリア、トスカニア、其の他の山腹の階段地は葡萄、橄欖等の果樹の栽培に適せり、又南部にありて椰子樹生育しシリア嶋に於ては草綿の收穫あり、然れども産額の巨大なるは葡萄にして三千萬乃至三千五百萬頭に達せり而して南部の牧地は羊、牛を飼

養せり、鑛産は鐵、大理石、硫黃等の數種に過ぎずして工業は未だ盛なるに至らざるも機械の製作、造船、製鐵に従事し絹布羅紗を織出だす、貿易は次表の如くなるが

年 次	輸 入		輸 出		通 過 貨 物
	貨 物	費 金 圓	貨 物	費 金 圓	
一八九二	一一七三	四四	九五八	五四	五一
一八九三	一一九一	四三	九六四	九四	五〇
一八九四	一〇九四	一〇八	一〇二六	三一	五八

輸入國はイギリス、ドイツ、フランス、エステルライヒ、ウングアルヌ合衆國等にして輸出國はシツウィツ、フランス、ドイツ、エステルライヒ、ウングアルヌ、イギリス等なり、又輸入品は實綿、石炭、生糸、穀類、皮類、鐵等にして輸出品は絹布、橄欖油、葡萄酒、鶏卵等なり而して此等の貨物に就きて百

分比例を作れば

	飲食品	畜類	原料	製品
輸入	二〇五	一九	五七四	二〇三
輸出	三〇四	四八	五二四	一三四

交通的機關は商船に六千五百五十九隻汽船六三三、三二八七十七隻、九千一百三十五隻汽船五六一六〇あり、鐵路に一萬四千九百四十四杆あり、郵便局は六千四十九ヶ處にありて、電信線は三萬八千二百八十八杆に達せり

ローマ(七五,〇〇〇)はラベレ河に跨れる市街なるが一千八百七十年以來王國の首都と成れり、歴史上殊に宗教史上有名なる舊市にしてローマ法法の居住處、カソリック教徒の聖地なり、美術的建築に就きて世界無比と稱せらる、此の地はローマ時代以後の各種建物を有せり、就中、コリセ、パンセオン、サンマテトロ、バナカン等を以て著しとす、而して此の地の

生業は羅紗、絹布、敷物、蠟燭等を製するが殊に寄石細工、彫刻物等の美術品を輸出するを以て有名なり、ポロニア(四八,〇〇〇)は學術の中心として名あり、又工業商業に従事す、アンコナはアドリア海に瀕す、軍港の一なるが貿易に従事す、ヒレンツェ(二〇,〇〇〇)は美術史上有名の地なり、絹布、裨帽を製す、リボルノ(一〇,〇〇〇)は一大商港にして盛に絹布、大理石、裨帽等を輸出し、又機械を製造す、トリノ(三三,〇〇〇)はポー河に瀕す、舊都の地にして學藝の中心なり、兵器、絹布等を製す、スペツァは造船所を有す、セノワ(三三,〇〇〇)は軍港なるが又貿易港の一なり、クリストフコロンブは此の地に生る、ミラノ(四三,〇〇〇)は商業の中心なるが又絹布、綿布、馬車類を製造す、ベチツァ(二五,〇〇〇)は瀕地に建設せられたる市街にして中古の時代には盛を極めしが宮殿寺院等の建築を以て名を知らる、此の地に造船所あり、ナポリ(三三,〇〇〇)はベッパ山の麓にありてナポリ灣に瀕す、學術の中心とし將

又工藝商業の中心として著名なり、殊に古物博覽會は世の知る所なり
 バレレモ(三、〇〇〇)はシシリア島の最大都なり、メシナ(五、〇〇〇)は軍港の一
 なるが又絹布綿布を製す、カタナ(三、〇〇〇)はエトナ山の麓に於ける一商
 港なり

イタリアが海外に所有する土地并に保護地はアフリカ洲の東岸に
 ありてエリスレア、チグレ、アウッサ、ソマリーリの一部より成れり

◎サンマリノ共和国

サンマリノはアドリア海の沿岸地に於けるチタノ山にあり、六十二方呎の
 地積と八千の人口とを有する一小共和国にして六十人より成る大會と十二
 人より成る小會とを有するが六ヶ月毎に改換せらる、二人の首長は政務を
 司れり

◎マルタ

マルタ、ゴツキ、コミノの三嶋は一千八百年以來イギリスに屬す、地積
 は三百二十三方呎に過ぎざるも人口は十六萬八千に達して方呎に付
 き五百二十人の割合なり、土地は岩石より成りて耕耘に適せざるが、シ
 シリア島より輸送し來りたる壤土に依りて僅に柑類、草綿を栽培せり、
 氣温は零度に降ることなく更に寒氣を覺えざるも夏季は乾燥に失し
 冬季は強風屢起る、殊に降雨少なく源泉に乏し、首府ラバレッタ(七、〇〇〇)は
 マルタ島の東岸にあり、軍港は堅固にして地中海艦隊の根據地たり、商
 港は地中海に瀕する諸港中の餘々たるものにして百貨の集散甚だ活潑
 なり

◎バルカン半島

南部ヨーロッパに於ける三大半島中にて東にあるをバルカン半島と

スラヴ人あり、ブルガリア、東ルーマリアにはブルガリア人あり、アルバニアはスキッタル人、占居の地にして、コンスタンチノールよりサロニカに至るまで沿海地并にコンスタンチノール、アンドリノール、ヒリッポポリ、サロニカ、モナスチル等の如き都會の地にはギリシヤ人多し、トルコ人は各處に居住するも其の數は甚だ少なし、宗教には三派あり、ギリシヤ正教はギリシヤ人、スルビヤ人、ブルガリア人、トスケ人等之を奉じ、カソリック教はボスニア人、ゲグへ等之を信じ、マホメット教に屬するものはトルコ人の全部并にボスニア人、南北アルバニア人の一部なり

從來本半島は擧げてオトマン帝國に屬しスルタンの威權の下に屈服せしが十九世紀に至りてギリシヤ、トルコ、スルビヤ、ブルガリア、東ルーマリア、ボスニア、ヘルツェゴビナ、ダルマシヤ等の政治的區分を見るに至れり

◎ギリシヤ王國

ギリシヤ即ちヘルラスはバルカン半島の南端に於ける半島國にして東南西の三面はエジエア海、地中海、イオニア海に枕み、北方のみは大陸に接續せり、ギリシヤは古來有名なる土地なるが、現時の王國は盛時の帝國に比すれば實に一小部分たるに過ぎずしてヘルラド、モレア、島嶼の三部より成りて六萬五千百十九方杆の地積を有せり

海岸は風曲に富めるが殊にエジエア海に瀕する部を以て然りさす、而して内部は山岳縱横に走り起伏は錯綜を極め、テッサリア、メッセニア、ペオシヤ等の平地あるも廣濶なるもの更になく又ヘルラド地方に於ける山脈の海拔は二千五百米突を越ゆることなきがリアクラ山(バルナッス)は名を知らる、モレア半島に於ける最高峰はサンタエリアにして海拔は二千四百七米突なり、河流にはサラムブリア、アスプロボタモ等の存するあるも水量に乏しく些少の利便を供するに過ぎず、氣候は溫和にして激變を覺えざるも、地貌の錯綜起伏せる、各處

の氣温一極ならず、山間の閉塞地、濕潤に失する湖畔、又沿海の沖積地には時に猛烈なる洞疫の流行するあるも、其の他の地は概し健康に適せり、殊に島嶼にありては晴天多く、寒暑の變化少なく、氣候極めて佳良なり、降雨は冬季に多きも年平均は四百軒を越ゆることなし

人口は二百二十二萬にして、方料に付きての人口は三十四人なり、現今のギリシア人が往昔のヘルレニア人の純粹なる子孫たらざるは明にして、ストラブ人にヘルレニア人、アルパニア人、ロマーニア人、イタリア人、サッデア人、ボヘミア人等の血液を交へたる雜種の民なるべきも、往古のヘルレニア人の質素、忍耐、着實にして、學藝を好み、國家を重ずる等の美性を備へしヘルレニア語を保存し來りて今に之を使用せり而して純粹のヘルレニア語を用ふるはエトリア、スハキア地方の住人にして殊に山間に於けるマイナ地方の居民なりとす、宗教はギリシア正教を

以て大多數の信奉する所と爲すも、北部には二三萬のマホメット教徒の存するあり

一千八百三十年以來獨立國と認められたるギリシア王國は立憲政治の下にありて二百七人の議員より成る國會と五人の國務卿より成る内閣とを有せり、上に世襲の君主を戴くも、四民平等にして特有權の存するあるなく、和親友愛の情力に依りて、協同一致せるの點に於て一好模範たらずんばあらず、兵備は陸軍に平時の三萬三千人、戰時の六萬六千人ありて、海軍に兵艦の四十一隻、三萬三千噸、乗組員の三千二百人あり

ギリシアは土質の稔確なると起伏の饒多なるが爲し生産の力は缺乏せざるを得ず、農業は盛ならず、工業は僅に發達の初期にあり、獨商業殊に海上貿易は古來の富源にして亦中興ギリシア第一の生産力たり、一

萬五千方杆の耕地あるも穀類の産出多からず、九百方杆の葡萄園は一
百萬頭の葡萄酒と多量の乾葡萄と與へ、外に橄欖、柑類、無花果等の果樹
あり、牧畜は微々たるも亦發達の望みなきにあらず而して漁業は稍盛
なりとす、工業は僅に銀鉛鑛の採掘に従事するのみなるも商業は甚盛
なり、貿易は一千八百九十四年に於て輸入に一億一千万ドラクムあり
て輸出に七千四百萬ドラクムあるが穀類、石炭、製藥、綿布等を輸入して
乾葡萄、鉛等を輸出せり

	飲食品	獸類	原料	製作品
輸入	四六、六	三、七	二一、〇	二八、七
輸出	七二、五	—	二七、五	—

交通に關しては陸上に道路を建造改築し、鐵路の發達を圖り、コリン
スの運河を開鑿せり、商船には一千二百九十隻、二十三萬九千六百十七

噸あり

アセヌ(SO, P. SO)は往古のアセヌの地に建設したる市街なるが河流に
瀕するなく海岸を距ること數里の處にありて近代の市街地としては
資格に缺くる所多きも、王國の首都たるが故に漸次に旺盛に趣けるが
如し、且又此の地はパテルノン、エレクトイオン、スエセイオン等の有名な
る建築の遺跡あるを以て世に知らる、ピレアス(三、五〇〇)はアセヌの附近
に於ける商港にして盛に百貨の取引を爲せり、パトラス(三、四〇〇)はコリ
ンス灣の入口にあり、乾葡萄の集散地として名あり、ヘルモポリス(三、二〇〇)
はシーラ島にあり、王國第一の商港にして東西地中海の航路に當れる
を以て船舶の出入甚多し

◎トルコ帝國

メマリク、イ、オスマニエ 即ちトルコ帝國は、エヴロップ、アシア、アフ

リカの三大洲に跨れる一大國にして地積は三百八十九萬方呎、人口は三千三百五十二萬に達せり

所 領 地	地 積	人 口	方 呎 付
直轄地	一六、八五三三	五六〇、〇〇〇	三三
ボスニア、ヘルツェゴビナ	五、一一一〇	一三三、六〇九一	二六
サンジヤク、ノビムザル	七三、五〇〇	一五、三〇〇〇	二一
ブルガリア	六、三二一六〇	三三〇、九八一六	三三
東ルーマニア	三三、三五〇〇	一〇三九、九〇〇〇	三一
小計 エヴロップ部	三二、三六五六		
直轄地	一七七、七七〇〇	一五四三、〇〇〇	九
サモス	四六八	四、七九九二	一〇二
小計 アジヤ部	一七七、八二〇〇	一五四七、八〇〇〇	九
トリポリ	七九、九〇四〇	八〇、〇〇〇〇	一
エジプト	九九、四三〇〇	六八四、八〇〇〇	七
小計 アフリカ部	一七九、三三〇〇	七六四、八〇〇〇	四
合 計	三八九、五三〇〇	三三五二、五〇〇〇	八

政體は一千八百七十六年發布の憲法に依れば帝國議會は元老代議の二院より成りて國政に參與すべきなれども實際に召集を行ひたることなし、されば事實上は專政君主國にして君主は大トルコ即ちスルタンと稱し、カリフを兼ね、内閣は陸軍、海軍、法教、内務、財務、學務、工商等の各大臣より成りて太政を司り、元老院、參事院は各種政務を分擔せり、又エヴロパトルコに於ける地方の行政は總督府を七ヶ處に設けて之を管理せり、兵備は陸軍に平時の十八萬人、戰時の八十萬人ありて兵艦に甲種の四十一隻、六萬八千噸ありて乙種に六十二隻、四萬一千噸あり、財政に關しては歳入に二百二十九萬リールありて歳出に二百十八萬リールあり而して國債は一億四百萬リールに達せり

エヴロパトルコの地は概して佳良なるが濕氣の充分なる溪谷にありては殊に肥腴なり、現時の如く生産力の強大ならざるは住民の怠惰

と官吏の苛政に歸せざるを得ず、然れども尙ほ多少の産あり、農業は穀類、葡萄酒、煙草を興へ、牧業は羊を飼ふ。又ロドベ、マセドニア、アルバニアの山地には森林の存するあるも、道路の整備せざる爲め之を利用するに至らず、工藝は不振なるも亦敷物、絹布、香水、馬具等を製出せざるに非ず、貿易は輸入に二千四百五十五萬リールありて、輸出に一千五百三十七萬リールあり而して、輸入國はイギリス、エステルライヒ、ウングアル、フランス等にして、輸出國にイギリス、フランス、エステルライヒ、ウングアル等なり。又輸入品は麻布、砂糖、絨物、穀類、綿絲等にして、輸出品は穀類、葡萄酒、生糸等なりとす。

	飲食品	畜類	原料	製品
輸入	二六、二	三、〇	一三、二	五七、六
輸出	五七、九	二、四	三〇、八	八、九

交通上の機關には商船に五百九十隻、十二萬噸あり、鐵路に三千百四十軒、外に小アジアに一四七〇軒、シリアに一九七軒あり、郵便は一千四百四十二局を有し、電信は三萬二千餘軒の長を有せり。

コンスタンチノプル(七、〇〇〇)は一にスタンブルと云ふ、ボスホルス海峡に枕み航通上、最要の位置にあり、國都としてオスマニエの一大政區たるのみならず、又東方貿易の一大中心なり、殊に寺院宮殿は壯觀を極むるを以て有名なるが住民にはトルコ人、ギリシア人、アルメニア人等あり、アンドリノプル(七、〇〇〇)は革、敷物、香水を製す、サロニカ(五、〇〇〇)は商港の一なるが商業稍盛にして絹布、綿布を製す、スクタリ(三、〇〇〇)は同名の湖に瀕す、アルバニアの首府なり。

○モンテネグロ公國

モンテネグロ即チルナゴラはヘルツェゴビナの東にありて、コッソボ、ス

コドラ二州の間に介在せる小國なるが、地積は九千三十方、秤にして人口は凡そ二十萬なれば、方秤に付きその人口は二十二人なり、種族は南部スラブの一派に屬し、愛國心に富み、獨立に熱衷するの點に於ては殊勝なれども、亦教育なく、學識に乏しくして、半開の民たるを免れず、信教上に於てはカソリック教、マホメト教の各に四五千人の信徒あるの外、其の他は悉くギリシア正教を奉せり、政體は君主專治にして、世襲の公爵は自己の任命に係る内閣と共に國政を司り、兵備は舉國皆兵の主義に依るを以て、戦時には三萬六千餘の兵を得べし、國內山岳多く到る處岩窟にして、地味は礫礫を極む、從て耕種に適するの地稀にして、僅に牧業に依りて牛羊を産するのみ、貿易の高は二百萬圓内外にして、輸出品は家畜生毛、牛酪等なり、交通上の機關は不完備にして、車行に堪ふる道路少なく、鐵路の如きは皆無なり、郵便は八ヶ處に局を設け、電信は四百四十四

斤の長を有するに過ぎず、首府はセツナンエにして、アドリア海、カツタロ灣、スコドラ湖を距ること相均しく、海拔一千一百米突の盤地にあり、君主の居住地たるも人口は一千二百あるのみ

◎ボスニア—ヘルツェゴナ

ボスニア—ヘルツェゴナはベルリンの條約(一千八百七十八年)に依りてトルコ帝國の主權の下にエステルライヒ—ウンガルス君主國の占領地と成りたり、地積は五萬一千餘方、秤にして人口は凡そ百五十萬なり、住民の三割五分はマホメト教を奉じ、四割三分はギリシア教を信じ、其の他はカソリック教に屬す、セライェナ(三、八〇〇)はボスニアの最大市にして、モスタル(一、五〇〇)はヘルツェゴナ第一の都會たり

◎スルビア王國

スルビアはバルカン半島の北部の中央に位し、北はドナウ河を挟み

てエステルライヒ、ウングルスに接し、西はドリナ河を隔ててボスニアに境し、南は山岳に據りてトルコに隣し、東はブルガリア、ロマーニアと境界を共にせり、國境附近に於ける山脈は海拔二千米突以上に達して樹木は蒼蔚として之を蔽ひ、河流も其の數少なからざるが、就中モラワ河は多量の水をドナウ河に輸送せり、地積は四萬八千六百方呎にして人口は二百二十八萬なれば方呎に付きての人口は四十七人なり、此等の住人は概ね、ワゴスラフ種族の一派に屬するが十四萬餘人はロマーニア語を用ひ、三萬七千餘人はボヘミア語を用ふ、而して信教上はギリシア正教に屬せり、特に記すべきは身體強健にして敢爲不撓の氣力に富めるスルビア人は、ブルガリア、ボスニア、ツルナゴラ、ヘルツェゴビナ、スラボニア、クロアシア、ガルチオラ、イストリア等を併呑して昔日のツァシアン帝國を再建せんと熱衷するの一事なり、此の國は舊トルコに隸

屬せしが一千八百七十八年のベルリン條約に依りて獨立を認められ一千八百八十二年以來は王國と稱す、政體は立憲君治にして立法を司る國會を有し、地方の行政には廿二郡の設けあり、兵備は陸軍のみなるが平時に十萬餘ありて戰時に三十二餘萬人あり、土地は概して豊饒なれば穀類殊に蜀黍を産し、その他、果物にはアプリコット、葡萄多し、又牧業は豚を飼ひ、山林は木材を産し、鑛業は石炭、水銀、鉛等を與ふ、貿易は輸入に三千四百八十八萬チナルありて輸出に四千六百萬チナルあり、而して交通に關しては道路は多少開け、鐵路は五百十七呎の長を有せり、ベオグラド(五四〇〇)はドナウ河とサエ河との相合する地にあり、王國の首都たるのみならず軍府とし商業の中心として名あり、クラクイエツツ(二、一〇〇)はモラワ河の支流に瀕す、王國議會の所在地なり

○ブルガリア公國

ブルガリアは東ルーマリアを合すれば九萬九千六百六千方料の地積を有し三百三十萬の人口を有せり、住民の多數はブルガリア人にして五十七萬のトルコ人、六萬のギリシア人、五萬のチガス、三萬のツァデア人あり、而して信教に依りて住民を區別すれば正教に百六十萬、マホメット教に六十四萬、ツァデア教に三萬、カソリック教に二萬餘あり

トコル帝國の屬領たるの名目を有するも、ブルガリア公國は立憲君主政治の下に置かれ、立法を司る國會と行政に當る責任内閣とを備ふ、而して地方行政上の區分に関してはブルガリアに十七縣、東ルーマリアに六縣あり、又兵備には四萬餘の陸兵あるも、海軍は數隻の小艦を有するに過ぎずして、政費は八千九百萬レユなりとす、生業は著しからざるも、農業に麥の産あり、牧畜に羊の産あり、又香水は東ルーマリアの特産たり、貿易は輸入に九千九百萬レユありて輸出

に七千二百萬レユあり、而して交通に就きてはドナウ河の航路と八百三十八杆の鐵路とを有せり

ソヒア(西七〇〇)はブルガリアの首府にして、ブルガリア、東ルーマリア二州の管轄廳の所在地なり、ヒリッポポリ(三六〇〇)は東ルーマリアの舊都なり、シムラ(三三〇〇)は堅城を有するを以て名あり

● ロマニア王國

ロマニアはバルカン半島の北東に於ける一小國にして、モルダビア、パラキア、ドブルヂアの三部より成れり、モルダビアは南北に長く、東西に狭く、北と東はドナウ河の支流プルス河を隔て、ロシヤのベッサラビアに接し、西はカルパット山脈を控へて、ウングアルヌに隣す、ワラキアは南北に短く、東西に廣く、北は後シルバニアアルプに據り、西並に南はドナ

ウ河を挟みてスルビア、ブルガリアと境を交へ、東はドナウ川に連なり、北の一部はモルダビアに通せり、ドナウ川はバラキアの東にありて北と南にベサラビア、ブルガリアを控へ、東方の一邊は黒海に瀕せり、地積は三部を合はすれば十三萬一千二十方軒と成りて山岳地、丘陵地、平地の間に平分せらる

山岳はモルダビアの東部とバラキアの北部にありて東西に走る後シルバニアのアルプ山脈はオム山(二五〇八)を以て最高峰とし南より北に赴くガルバツト山脈はシアフレウ山(一九九七)を以て最高處とす、河流は甚だ多くして灌溉の利は勿論、交通の便を合はせ供するものあり、而してドナウ河はロマーニアの主水脈にして支流にはモルダビアに於けるセルス、プルス、等あり、バラキアに於るジュ、オルチヤ、アルゲス、ヤロムニツァ、等あり、氣候は大陸的にして寒暑の差著し、平野に於ける夏季の最高温度は三十六度にして、冬季の最低温度は零度下廿八度なれば寒暑の差は六十四度と成るが山地にありては冬季は一層低温を示

して零度下三十五度に下降ることあり、是れ平低なるロマーニアがロシアの草原より吹き来る寒風に對して保障を有せざるに依れり又ブクレッシに於ける雨雪日の平均は雨天の七十四日と雪日の十一日にして雨量の三百七十四糎と雪量の七百二十糎なり而して冬季は長きも春季は短くして十五日に達せざることありて最好の季節を秋季とす

人口は五百餘萬なるが之を地積に對比すれば方軒に付き三十九人と與ふ、而して住民は概してロマーニア種族に屬し其の數は四百三十萬に達せり、此の外、ツァデア人に十五萬、ツァガヌ人に二十萬ありて殘餘はスラブ人、ドイツ人、マチャル人、アルメニア人、ギリシヤ人、等より成れり、宗教上に於てはギリシヤ正教に四百二十萬人、ツァデア教に十五萬人、カソリック教は三萬五千人、新教に三萬人ありて、其の他はアルメニア教、リポハン教、マホメット教に屬せり、

ロマーニアは舊と一公國としてトルコ帝國に隸屬せしが一千八百八

十一年以來獨立して王國と稱す。君主は二院より成る國會と八人の國務卿より成る内閣と共に國政を司れり。兵備は陸軍に平時の四萬五千人、戰時の十二萬人ありて海軍に兵艦の二十一隻三千噸、乗組の一千五百人あり。

ロマーニアは純然たる農業國なるが耕種、牧畜に適する十萬方疇に就きて四萬二千五百方疇は二千一百萬頭の穀類を産す、即ち蜀黍の一千七百萬、大麥の六百五十萬、烏麥の六百萬等なりとす。此の外、葡萄園は一、千六百三十二方疇ありて二億六千萬フランクの葡萄酒を産せり、而して山地が木材、鑛産に豊富なるに拘らず、工業は極めて幼稚にして僅に岩鹽と石油との産あるのみ、貿易は輸入に四億二千二百五十萬レイあり輸出に二億九千四百二十五萬レイあるが、輸入品の重なるものは織物、金屬器、果菜等にして輸出品の主なるものは穀類にして其の他は著

しからず

交通的機關は稍發達して三千三百疇の國道、五千六百五十疇の縣道、二千八百疇の鐵道を有し、三千二百ヶ所の郵便局、六千五百疇の電信線の設けあり。

ブクレッシ(二九、六〇〇)は王國の首都なり、ドナウ河の一小支流たるダンホビツ河に瀕し、海拔九十六米突の地にありてバラキア平野の中央に位置せり、街衢は美麗ならざるも南東エッロップ第三の都會として繁榮せり、ヤッゼ(三〇、三〇〇)はモルダビアの舊都なり、プルス河を距ること數里の處にありて商業に従事せり、ガラツ(三〇、〇〇〇)は王國第一の商港にして穀類の集散地なり、ブライラ(四、七〇〇)は河港の一、倉庫の地として漸次に旺盛に趣けり、ポトス(三、一〇〇)はモルダビアの北部にありて農産の中心たり、プロイエスナ(三、五〇〇)は交通上の要處として繁榮の地なり、クライオーラ

③ ④ は小ハンギア地方より出づる物産の集散地なり

⑤ ⑥ は洲終

あぶらか洲

中等地理教科書

外國地誌

あふりか洲目次

總論	一
自然之部	一
政治之部	一八
北東地方	二七
エシプト	二七
トリポリ	三二
ベルベリア地方	三三
ナリニア	三五

ドイツ領……………五七

コンゴ—地方……………五七

コンゴ—自由國……………五八

フランス領……………五九

ホルトガル領……………六〇

南西アフリカ地方……………六〇

ドイツ領……………六一

イギリス領……………六一

カラハリ地方……………六二

ザンベジヤ地方……………六二

マタペレ……………六四

アルタミア……………三七

マシレフ……………三九

サハラ地方……………四〇

スーダン地方……………四四

東方スーダン……………四五

中央スーダン……………四五

沿岸スーダン……………四七

アビシニア地方……………五一

ソマ—リ地方……………五四

東アフリカ地方……………五四

イギリス領……………五五